
La Revuo Orienta



JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO

ŜIN'OGAŬAMAĈI III, UŜIGOME, TOKIO



| 目次 | 編輯者 露木清彦 |
|--------------------------------------|------------------------|
| Ĝenerala Sekretario 設置について會員諸君に..... | 大石 和三郎 321 |
| 緑の旅..... | (在獨逸) 伊藤 徳之助 323 |
| 我國初期に於けるエス獨習書瞥見..... | 佐藤 義雄 324 |
| 生ひ立ち(初等)..... | 吉野 櫻雄 326 |
| 母を尋ねて(中等)..... | 秋山 栗郎 328 |
| 新刊紹介..... | 大島 義夫 330 |
| [エス文] | |
| [科學欄] | |
| 1. 産兒制限(II)..... | 淺田 一 331 |
| 2. なめくじとかたつむり(I)..... | 澁木 柿郎 333 |
| Notoj pri P' Bibliaj Vortoj..... | 宇都宮 正 335 |
| 朝鮮短篇小説集(完)..... | 金 億 336 |
| U. S. S. R. の刑務の片影..... | Kolobaskin 氏よりの手紙) 336 |
| 日本に於ける印象(自轉車旅行記了)..... | 佛人 ベレル 337 |
| ベレル君よりの手紙..... | 340 |
| 譯語秘話..... | 粟飯原 晋 341 |
| TAGIGO の新譯..... | 小野田 幸雄 342 |
| 海外報道..... | 小此木貞次郎 343 |
| 内地報道..... | 345 |
| 會員の聲..... | 351 |
| 編輯後記..... | 352 |
| (表紙)もみじ..... | 露木清彦 |

學會電話開通 !!

出版その他いろいろ事務上の必要から今度電話を設ける事にしました。番號は...

牛込(43) 5415 番

★學會役員會例會★

今月から役員會例會を毎月第三火曜に開くことになりました。

——十一月十八日午後六時半より——

★例會兼研究會★

毎週水曜日 19 時より 【會費不用】

★初等科講習會★

11 月 11 日 —— 12 月 9 日

毎週火・金曜日(9 回)

午後 1 時半 3 時

會費 1 圓 50 錢(教材共)

講師 平澤 義一氏

★中等科講習會★

【晝の部】

11 月 17 日より毎週月曜・木曜

午後 1 時半——3 時

講師 平澤 義一氏

【夜の部】

11 月 14 日より毎週金曜日

午後 7 時より

講師 伊藤 己酉三氏

會費 晝 一ヶ月 1 圓
夜 一ヶ月 50 錢

——用書未定——

Generala Sekretario 設置について會員諸君に

理事長 大石 和三郎

エスペラントが我が國に移し植えられてからこゝに二十餘年の星霜を閲しました。我が「日本エスペラント學會」が我國第一期エス語運動の中心機關であつた「日本エスペラント協會」の後をうけて我國エスペラント運動の休戚を負つてたつに到つてからこゝに正に十一年の歳月を経ようとしてゐます。

かくてこの十一年の間に我國のエスペラント運動は数十倍の發展を致しました。十年前には東京横濱兩市以外には一縣に僅か十指にたらしめエスペランティストしか存在しないといふみじめな状態であつたのに比べて今日ではいかなる山村僻地にも一人や二人のエスペランティストを見出す事がさまで困難でないまでに全國津々浦々に普及しつゝある有様であります。

かゝる結果が齎されたのは全く時代の力が大いに與つてゐることは申す迄もありませんが又我「學會」と緊密な聯絡を保たれてこの sankta laboro に精進された各地同志諸君の御努力の賜物であるを深く感謝してゐる次第であります。

然しながら翻つて考へてみますに我國に於けるエスペラントの勢力は十年前に比して格段の相違ではありまするがまだまだ十分に實用の域に達せず猶普及宣傳に力を致すべきことを痛感致します。即ちエス語が實用化されて社會百般の事象の中におりこまれる時代がまだ十分到來致してをりません。我國に於ても既に一部學界に於てはエス語を以てその研究を發表しつゝあり一部の宗教界教化團體に於て之が活用を劃策しつゝありその他二三の方面に於て之が實用を企てつゝある有様を目撃してをりますが何を申しましてこれに社會のごく一小部分にすぎない状態でありましてエス語が社會のあらゆる方面に擴充し沈潜してゆくためにはまだまだ今後の我々同志の一致協力にまつべき所のものが多いのであります。この重大な時期に際し各地の同志諸君が我「學會」の活躍に期待されるこそが實に絶大であるを考へます。かく考へまする時に我々學會の役員職をけがすものはその責の重且大なる事を痛感する次第であります。

こゝに於て我々役員間に於ても從來からも我「學會」の「積極的の活動方法」について

種々相談致してをりましたが何分未だ豫定の基本金たる五萬圓の資金を積立てることができないので如何とも手の下し様がなかつたのであります。今回 ICK の special-delegito たる Scherer 氏の來朝を機としてこゝに「學會」事務の能率をあげる意味で全く専任の generala sekretario を一人設置する事が何を措いても緊要缺くべからざる事を考へましたので去る 9 月 28 日に理事會を開催して此の事について相談し可決確定の上 10 月から general-sekretario として平澤義一君に働いていただく事にしました。こゝにこの事を會員各位に御報告旁々些か general-sekretario 撰任事情について次に少し申し上げ且今後も學會の活動に對して以前よりも一層緊密な聯絡を諸君に願ひする次第であります。

General-sekretario
設置の理由

御承知の様に創立以來十一年の間學會の事務は一切無報酬で有志諸君の提供によつて處理されてをりました。學會が大正 15 年財團法人の認可を受ける前までは事務所も小坂氏宅を無料で借用してゐるさういふ状態でありました。その結果事務上には殆んど何等の經費も要せないさういふ有様でそのお蔭で學會の財的基礎は年一年と強固になりました。然しながら會員が僅か三四百名にすぎない創立當初と比較して数十種の出版物をもち數百種の外國圖書を輸入販賣する現在の學會の事務は餘りにも輻輳してきた事は誰しも想像できる事を存じます。幸にも「學會」には倦まずたゆまず創立當初から勞力奉仕を提供されてゐる二三の方々の存在と最近特に出版部庶務部の事務の一般を毎日手傳ひに來て下さる或同志の方の御親切によつてこの澤山の事務がどうやら處理されてゐる状態であります。

併しながらこれらは「學會」の庶務會計出版取次等の事務の處理であつて「學會」がエス運動の中心機關としてなすべき仕事例へば地方會との聯絡 ICK との聯絡一般宣傳事務雜誌編輯等の如きものについてはやはり有志諸君の援助によつて處理してをりました。併しながら誰しも自身の職務をもたぬ者はなくために晝間は絶対にエス運動のために奉仕する事が不可能で僅かに夜間のみこれらの人々

の手によつてどうにか事務が處理されてをりました。併し乍ら職務の都合で konstante に學會の事務をみるさいふは何人にも不可能なことで、その従事する職務の閑な時期だけ來て働いていたといふ状態でしたから同一の事務も時によつて處理する人がちがひその間十分の聯絡統一もないといふ遺憾な状態を繼續致してをりました。そのためある時は圖書部の事務が滯滞するし、ある時は地方部の事務が滯滞するといった風で、そのため各地の地方會や同志からの問合せに對しては或時はすぐ返事ができるが或場合には返事が半年も遅滞するといった風なことが屢々でありました。これでは地方の同志に對しても外國のエス會に對してもまことに申譯のない事でありました。併し乍らこの事務の状態は一人でもいゝから有給で朝から晩まで事務の整理にあたつてくれる general-sekretario をおかげ限り何とも解決のつかぬ問題でありました。その爲め學會のこういった事情を御存じない地方の方々からは大變手きびしい督促状をいただいたり、學會の事務は消極的でいかぬといふ批難をうけたり致しました。

その間我々は會員諸君に向つて我學會の基本金が五萬圓になつてその預金利子が月 200 圓位に上り何等後顧の憂ひのない様になつた時に大いに積極的の活動にうつるつもりであり有給事務委員も設置するから今日はその基本金五萬圓を目標に一切「緊縮」の一天ばりで突進する事を申上げて御了解を願つてをりました。

併し乍ら今日我國エス運動の現状からみて何時迄もこの消極的な經營をつゞけるといふ事は我邦エス運動の休戚を負ふ學會のさるべき態度としても不十分であり、又刻下のエス運動は何時迄もこのやり方をつゞける事の不可能なことを考へました。勿論我々は飽迄も十一年の長い間の學會の傳統を忘れず何時迄も健實な努力を續けることをちかふものでありますが、この際この好機に際して從來の比較的消極的であつたやり方を一變して漸次積極的に働きかける事の必要を感じました。それで資金はまだやつと五萬圓の半にすぎませんが、この基本金に何等手をふれることなく、どうにか通常經費や出版部の益金の一部をさいて年來の懸案であつた有給の general-sekretario を設置する覺悟を致しました。勿論有給といつても仕事に相當する十分の報酬を出すことは貧弱な會計から不可能ですが、

それにも拘らず幸ひにもこの煩しい事務を敢然として引受けて下さつた平澤君の好意を感謝してゐる次第です。

General-sekretario その人とその事務

平澤義一君は東京生れの方で先年電機學校を卒業され、その後三菱の地所部につさめてをられた方ですが昨年から殆んど毎晩我學會の事務の手傳を奉仕的にやつてくださつてゐた方です。同君は一兩年エス語を學び始められましたが語學の天分に恵まれた方で今日では大變流暢にエス語を話され且快活圓滿な性格の青年でどの方面からみても學會の事務を扱つていたゞく上に於てこの上もない適任の方であると存じます。我「學會」のこれまで滯滞し勝ちであつた事務が同君の努力によつて今後は十二分に迅速に處理されてゆくこと云ふ事は我々の確信する所であります。

今後主として general-sekretario たる同君に處理していただく事務は：

1. 各地方會員よりの問合せ狀に對する敏速なる返事
2. 外國同志等の來朝その他各地方會又は地方會員に對し特に敏速に報道すべき事項に關し迅速に通報する事
3. 外國圖書雜誌取次事務の處理
4. La Revue Orienta の校正及印刷所との一切の交渉事務。(從來 R. O. は編輯當番がやつてゐましたが今後は編輯は編輯會議にて大綱を決定して平澤君は主としてその未完成原稿の督促と校正をする事にした。)
5. 其他一般の事務の整理

以上同君に處理していただく仕事は仲々澤山ありますが今後も從來通り理事たり評議員たる方々はこれらの事務について同君を援助し補佐される筈でありますから今後の我「學會」の事務は遙かに迅速に且機敏に處理される事と存じます。

併しエス運動の仕事として「學會」のなすべき仕事は到底一人や二人の手で十分になしとげ得るものではありません。必ずや多數の人々の協力一致にまたねばなりません。general-sekretario 設置の今後の「學會」をして一層エス運動のため精進せしめる様刺戟され激勵さるべき立場になゝるゝ會員各位におかせられては何卒我邦エス運動の發展のため「我等の學會」をよりよくもりたてらるゝ様御盡力あらんことを只管御願ひ申上げる次第でございます。

緑の旅 (四)

(赤い灯) 在ドイツ 伊藤徳之助

(前號よれ續く)

グララーが遅ればせに入ってきた、華な紫紺の夜會服に、一段と白い肌が映つて美しい、今日は見違えるように奇麗だ。

「御化粧に手間ごつたのでせう、とても奇麗ですれ、だが徽章は」

「紙入の中に大事にしまつてゐますよ」

「紙入？ 僕はいつでも心の中にしまつてある、實業家と詩人といふ取組ですれ」

「まア」

少し位きざに言はないと、ヨーロッパではシックでない、日本と反對だ、踊の間においてはヴァイオリンの獨奏、福引、獨唱、獨彈が入る。グリュックがやつてきた。

「何か二言三言しやべつてくれ給へ、たのみますよ、獨唱のあとで」

斷る暇もなくさつさと人込に這入つてしまふ、次の踊の間に人を無理矢理ひつばつて、管絃臺の上にひきあげる。

「……だが残念な事には、今日の御集りの方の中には、エスベラントを知らない方もいらつしやるやうです、どうぞ來年の春祭には、皆こぞつてエスベラント許りで話すことに御願ひします……こゝに極東日本のエスベランティストの名におい一言御挨拶致します」

拍手がとんだ、毛色の變つた男の話がわからうがわかるまいが、見世物だと思へばよい、世の中はごうせ芝居で過すのだ。

「コンラッドです、カイザー嬢が來てゐますから御紹介ませう」

演説が終ると、あはて、とんできた中年の紳士は、人込の中から長身の眼鏡をかけた、上品な御嬢さんをつれてきた、リリカイザー嬢だ、こんな品のよい慎しやかな御嬢さんはすくない。

「買つて頂戴よ」

ヴォイスラフスキーが富籤をうりにきた、一マークで三本……二本は空籤……あつたあつた 00058。

「何だらう」

「いつてみませういつてみませう……」

賣るのを忘れて入口にさんでゆく、58！
ババリア製の奇麗な鉢だ。

「あら」

「あら」

よつてゐた連中が眼をはる、

「どうです奇麗でせう」

席に持ち歸ると、握手が降る。

「まア……」

あさはわからないロシア語でしやべつて、前にゐた若い小奇麗な女が眼の色を變へる、それまで美しさに幾分氣を惹かれてゐたが、急に泛んだ物慾しさうな眼の色、野卑と下品、それ迄しめてゐた紙入をあけて富籤をかふ、入口にさんでゆく。

「私のも買つて下さい」

グララーがくる、誰彼が寄つてくる、カイザーだけは買へともすゝめない。

「グララーさんごうも難有う」

「いゝえ、ごう致しまして」

「皆空籤でしたよ」

「まア……」

試演がはじまつた、七人の役者は皆女連だ、「楽しい訪れ」といふ題、娘になつたゾレンダー嬢と叔母さんに扮したウブマン夫人は中々うまい、筋はつまらないものだつた、もう二時を過ぎてゐた、踊はこれから興に入らしい、曉迄踊りぬくのだ。

.....

フリードリッヒ街に出て乗合自動車をまつ、まだそこゝのカフェーの窓に人影が群つてゐる、街頭には客を待ち倦ぐんでゐる女の姿もある、酔つぱらいの千鳥足。

「こんなに澤山あたりましたよ、幸運でせう」

磁器、書籍二冊、繪葉書……

「ドイツではれ、富籤に幸運だと戀に破れるつて言ひますよ」

すました顔してローゼンベルクがいふ。

「私はれ、一本もあたらないわ、その代り戀に恵まれてゐますのよ」

ヴォイスラフスキーが闇の中でうそぶく。

(一九三〇、五、三)

我國初期に於けるエス語獨習書瞥見

佐藤義雄

去年秋同志社でエスペラント展覽會を開いた時、我同志龜山君が一本を携へて來た。見るに、二葉亭が我國で最初に發行したと云はれてゐる明治三十九年の、しかも二葉亭のそれよりも僅かに二月遅れたばかりの九月に發行せられた珍しい獨習書である。筆者寡聞にして未だ同書に關して聞いた事がなかつたので、同展覽會に之を陳列して、參觀の同志諸君にも尋ねて見たけれども、誰もその珍本である事を認めるの外、何等確定的な知識を得なかつた。

それは育英舎發行の「世界語獨習」と題し、日本エスペラント研究會の編纂にかゝる。日本エスペラント研究會とは何人が之を組織し、何人が主としてその會を指導してゐたか、之も私は知らない。そこで、最初、私はこの本は二葉亭の著書に基いて編纂したのではないかと思つたのであるが、其後三高エス會の好意により同校保管の二葉亭著「世界語」を借覽するに及んで、私の考へが全然誤つてゐる事を知つたのである。

この歴史的に貴重な文献を、爰に簡単に紹介するのも、決して徒爾ではないと信ずるので、禿筆をも顧みず起稿する次第である。

* * *

二葉亭の著書は横 3.1 寸縦 5.5 寸、鼠色羅紗紙表紙で明治三十九年七月十五日發行である。定價貳拾錢。發行所は東京神田區の彩雲閣。

日本エスペラント研究會編纂の獨習書は 10 cm × 15 cm、茶褐色の厚紙表紙で明治三十九年九月八日發行にかゝる。定價參拾錢で、發行所は東京日本橋區の育英舎。共にエス語の活字を用ひてゐるが、後者には特に注意が行届き、 \hat{j} の活字を排して j を用ひてゐる。印刷所は前者は小石川區の精美堂、後者は麴町區の同勞舎。尙後者には、「世界語辭彙」九月十五日發行の豫告がのつてゐる。果して發行せられたか否か。何れにしても當時は我國エスペラント運動の黎明期時代とも云ふべき時であつて、九月廿八日には第一回日本エス大會が東京で開かれた位であるから、購買者は可成りあつたものと思ふ。

體彩次の如し。

露國エスペラント協會々員

長谷川二葉亭著

教科用——獨習用

世 界 語

(エスペラント)

文法、會話、讀本、字書附

東 京

彩雲閣發行

1906

日本エスペラント研究會

編 纂

世 界 語 獨 習

全

東 京

育英舎發行

總頁數前者は 70 頁、後者は 166 頁。

* * *

二葉亭の「世界語」は總括的に見て、ザメンボフ博士の Fundamento de Esperanto と、O'Connor の Esperanto. The student's complete Text Book との翻譯と云つてよからう。二葉亭はその「例言」に於て「有名なるドクトル・ザメンボフが自ら筆を採りて起草せし露文の教科書」は「之を原文の儘に翻譯して我國人に進めがたき點あり、

ボ氏も此に慮る所ありて著作上の斟酌増減は一々余に委せられたれば、余の淺學を顧みず切りに大家の著書に向つて剪裁を加へたり」と云つてゐる。因にボ氏は浦潮のエス協會の當時の會頭ポストニコフ氏にして、二葉亭は同氏より始めてエス語の存在を聞いたのであつた。そこで氏はこの著書の初めに

謹で此書をドクトル・ザメンボフ

及ポストニコフ兩先生に呈す

著 者

なる獻詞を書いてゐる外に、O'Connor の Text Book 所載と同一の「ザメンボフ」の寫

眞の次にポストニコフ氏の寫眞をも掲載して敬意を表してゐる。

そして同書第一編に於ては第一章字母、第二章品詞、第三章總則を書いてゐる。之は明かにザ博士の Fundamento de Esperanto の Gramatiko と同一内容であつて、中に擧げられる例も同書の露語編に於けると同一である。第二章の §6 に發動分詞を自動詞、受動分詞を被動詞と云つてゐるのは、目につく。

第二篇の會話は、O'Connor の Text Book 第三部「會話」を種本としてゐるが、流石名代の文士丈に、その譯文は名文である。例へば

Vi estas prava. Li estas malprava.

御尤で、彼人は無理です。

Vi vin trompas, ne povas esti.

飛だ事、そんな事があるものですか。

Mi vin certigas, ke jes.

大丈夫それに違ひありませんよ。

その説明の一斑を示す

『Mi venos la London plej proksiman. 私
は次の月曜に來ませう。

(字解) Venos—veni (來る) の未來、
London—Lundo (月曜日) のヲ格、plej
—最も、proksiman—proksima (近
き) のヲ格、されば直譯) は「余は最も
近き月曜(即ち次の月曜)ヲ來るであら
う」にて、我語法より見れば殆ど語を成
さざれど、かゝる場合にヲ格を用ふるは
洋語の習ひなり』

と云つた具合に丁寧な極めたものである。

發音には勿論フリ假名つきである。

第三篇 讀方及譯讀 は Fundamento de Esp. の Ekzercaro の拔萃である。そして ĉiu, ĉiuj の譯には「各の」と「總ての」とにその譯し方を異にしてゐる等、實に至れり盡くせりである。同篇 §12 及 §13 に擧げてある Leteroj こそは二葉亭自身のエス文ではなからうか。筆者の及ぶ限りに於て調べて見たけれども、その種本と目すべきものがなかつた。

全篇を通じてこの書に於てエス語のまゝまつた讀物は、この §§12, 13 に於ける二通の手紙以外にない。今その一つを示す、(§12)

Estimata Sinjoro,

Antaŭ nelonge mi komencis lerni Esperanton. Mi nun kredas, ke certe ĝi estas praktika lingvo por internacia korespondado.

Mi esperas, ke baldaŭ homoj de ĉiuj nacioj uzados Esperanton, kiam ili skribas al fremdaj amikoj.

Mi ankaŭ intencas paroladi kun miaj konatoj pri tiu ĉi utilega lingvo.

kun kora saluto,

Via Samideanino.

M. Takata.

最後に、と云つても分量的には總頁 70 の中 33 頁以下全部に、字書を持つて來てゐる。

その「凡例」に於て、彼は造語法あるを説き、以て「是故に日常必須の語を數葉の紙中に網羅して悉く此一小字書中に收むるを得たり。されば此字書簡は則ち極めて簡なれども其用を濟す點に於ては豪も他の浩瀚なる字書と異なる事」なきを誇つてゐる。そしてその造語に就いては次の如き注意を與へてゐる。

イ、語尾を變化すべし (例省略)

ロ、語と語を組合すべし (同上)

ハ、下に列記する冠頭文字及後尾文字を添ふべし

さて接頭字 6, 接尾字 26 を擧げてゐるがその説明の一端を示す

ar 物の集合を意味す さてその例として現在の用法とは異り haro 毛筋、hararo 鬘を擧げてゐる。之は Universala Vortaro によつたものであらう

edz 人の配偶を示す。

この字は現在は一獨立語として用ひられてゐるが、元來接尾字であつた事は、語源的に見ても正しいと思ふ。この點に關しては小坂氏も R.O. 誌上に於て論ぜられてゐる様である

er 一個の物なるを示す。

は説明としては拙いと思ふ

ig 後尾文字にして自然的の意味を有する語を變じて人爲的の意味を有する語とする用を爲す。

iĝ 後尾語にして語意を一變し自主的の意味を有せしむる用を爲す。

一寸變つた説明をしてゐて、一寸わかりにくい。

um 後尾文字なれども其示す所の意義一定せず大抵某語に何等かの文字を挿入せば他の某語を得べしと思はるゝ場合に於て前記の諸後尾文字の用を爲さざるに用ふれば可なり。

尙相關詞に關しては、「此字書に載せたる或る代名詞副詞等の比較研究に便せんため爰に其一覽表を掲ぐ」さて表を作り、nenial「何等の原因なく」neniel「如何しても」等の譯をつけてゐる。

(352 頁へ續く)

生　　ひ　　立　　ち　　（初等用讀物）

（原名 Marjo. P. Christaller と F. Zamenhof が激賞した）
Svedujo の Henny Widström の小品

En bela lando loĝis Marjo. Bonegan patrinon ŝi havis, junan fraton kaj maljunan patron. Ŝiaj okuloj estis bluaj kaj tre klaraj, ŝiaj vangoj ruĝaj kaj la hararo orflava. Kune kun sia frato ŝi kuris sur la kampoj, grimpis sur arbojn kaj ludis en arbaro. “Infanoj,” diris la patrino, “Vi estas feliĉaj, ĉar vi havas tian hejmon.” “Panjo, ni estas feliĉaj, ĉar ni havas tian patrinon,” diris Marjo.

美しい國に——住んで居た——マルヨが。大そう良い母親を——彼の女は持つてゐた——（そして）若い兄弟と年老いた父親とを。彼の女の眼は——あつた——青く、そして甚だ澄み——彼の女の頬は赤く——そして——髪の毛はクリーム色で。自分の兄弟と共に——彼の女は走つた——野原で、——攀ちの

Foje Marjo ricevis malgrandan blankan katidon, al kiu ŝi donis la nomon Neĝbulo. La katido fariĝis ŝia viva infano, pli kara ol la pupoj. Tre singarde ŝi vartis ĝin, portis ĝin en siaj brakoj, kiam ĝi estis dormema, metis ĝin en puplulilon, kiam ĝi ekdormis, kaj kantis por ĝi tre mallaŭte:

Dormu bone, kara mia!

Sidas mi ĉe lito via.

Maldorma, Neĝbulo estis tre rigida. Kiel sago ĝi kuris, sin ĵetis sur la manojn de Marjo, sed entiris siajn akrajn ungojn, por ne vundi la mastrineton.

或時のこゝ——マルヨは受けた——小さい

美しい國にマルヨと云ふ子が居りました。彼の女にはやさしい母親と若い兄と老いた父親とがありました。彼女の眼は碧色にすき通る様で頬は赤く髪の毛はクリーム色でした。兄と共に野原で駈つこをしたり、森では木に攀ち登つたりしてあそびました。「子供や」と母親は申しました。「お前達は幸福だね、だつてこんなお家(家)があるんですもの」「お母ちゃん、妾達は幸福よ、だつてこんなお母さんがあるんですもの」とマルヨは云ひました。

ぼつた——木の上へ——そして——あそんだ——森の中で。「子供達や」——と云つた——母親は、——お前達は——ある——幸福で、——何となればお前達は——持つてゐる——そんな家庭を。「お母ちゃん、妾達は——ある——幸福で、だつて妾達は——持つてゐる——そうした母親を」と云つた——マルヨが。

或る時マルヨは小さな白い仔猫をもらひました、それに雪丸と云ふ名をつけました。仔猫は人形なごよりもつと親しい生きた子供となりました。大へん用心深く仔猫を育てました、仔猫が眠そうな時には自分の腕にかゝへ眠り出した時には人形のゆりかごの中に入れてやり、そして仔猫の爲に極く低い聲で唄つてやりました。

ねんねんよ、いゝ子だね!

妾は お前の そばに居る

ねむらない時の雪丸はさてもおかしいのでした。矢のやうに走つたり跳ねたり、マルヨの手の上に飛び上つたりしましたが此の小さい御主人を傷けないやうに自分の鋭い爪は引込ませて居りました。

白い仔猫を——それに——彼の女は與へた

——名を——雪丸と云ふ。仔猫は——となつた——彼の女の生きた子供と——より親愛な——人形などよりも。大へん用心深く——彼の女は育てた——それを、かゝへた——それを——自分の腕の中に、時に——それが——眠かつた、置いた——それを——人形のゆりかごの中に、時に——それが——ねむりはじめた、そして唄つた——その爲に——極く

En sia hejmo Marjo kaj ŝia frato Paŭlo faris la unuajn paŝojn sur la vojo al scienco. Ili havis privatan instruistinon, kiu loĝis en ilia hejmo. Sed kiam Paŭlo havis dek jarojn, Paĉjo kaj Panjo decidis, ke la knabo vizitu lernejon en malproksima urbo, en kiu loĝis parencoj de la familio.

自分の家庭に於ては——マルヨと彼の女の兄ボールは——成した——第一歩を——學問の道の上に。彼らは——持つた——家庭教師を、その人は住んだ——彼らの家庭に。けれど——時に——ボールが——持つた——十歳

Paŭlo ne estis ĝoja pro tiu aranĝo, kaj Marjo treege bedaŭris lin. Ŝi pensis, ke devas esti teruraĵo, esti kune kun amaso da fremdaj infanoj kaj loĝi inter multe da grandaj domoj kaj ne vidi la hejmajn kampojn, arbarojn kaj montojn. Dumnokte ŝi ofte tre ploris, kiam ŝi pensis pri tio. Sed Paŭlo venis kurage en la lernejon kaj al la parencoj.

Post unu jaro ankaŭ Marjo devis komenci la lernejon. Kaj—mirinde!—ŝi vere povis porti sian sorton.

ボールはよろこばなかつた、此の企ての(氣に入らぬ)爲に、そしてマルヨは——甚しく残念に思つた——彼のこゝを。彼の女は思つた——おそろしいことがある筈ださ、一緒に居ることは——見知らぬ子供たちと、そして住むことは——大きな家が澤山あるその中に——そして見ないことは——故郷の野原を森を、山々を。夜つびて彼の女は漸々——甚

底く：

よく眠れ、妾の親しいものよ！

妾は座つてゐる——お前のれ床のそばに。ねむらない、雪丸は——あつた——おかしく。矢の様に——それは走りそして跳んだ、飛びかゝつた——マルヨの手の上に、けれど引込ませた——自分の鋭い爪を——傷けない爲に——此の小さな女主人を。

家庭にあつてはマルヨと兄のボールは學問への第一歩を踏みました。彼らには家庭教師が居りました、その人は彼らと一緒に寝起きしてゐたのです。けれどボールが十歳になつたときお父さんとお母さんはボールが親類の人達が住んでゐる遠い街の學校に行くやうに決めました。

な、父ちゃんとお母ちゃんは決めた、さ——少年が——行け——學校へ——遠い街に(ある)その街には——住んだ——此の家族の親類の人達が。

ボールは此の企てには喜びませんでした、そしてマルヨは大へん兄を残念がりました。マルヨは見知らぬ子供らと一緒に居ることや大きな家が建ち並んでゐるところに住み、田舎の野原や、森や山などを見ないことはおそろしいことだと思ひました。その事を考へてゐるときには夜中によく泣きました。けれどボールは勇氣を鼓して學校に行き、そして親類の人の所へやつて來ました。

一年後にはマルヨも亦學校へ行きはじめなければなりません。そして、ほんとうに彼の女は自分の運命を擔ひ得たのです。

しく泣いた、彼の女が思つた時に——そのこゝについて。けれどもボールは——來た——勇敢に——學校へ——そして——親類の處へ。

一年後にはマルヨも亦——はじめなければならなかつた——學校を。そして——おそろしくべきことには！——彼の女は——ほんとうに擔ふことが出來た——自分の運命を。

母を尋ねて (中等用讀物)

原名 De Apeninoj ĝis Andoj.

伊太利の文豪 Edmondo de Amicis の傑作 „Koro“ 中の一編。

(此の抜萃は短期講習書中にもある)

Sur la ŝtuparo de l' vaporŝipo ekveturonta, la patro, donante al li kun larmoj en la okuloj la lastan kison, diris: „Ekkuraĝigu, Marko; Vi vojaĝas por sankta afero; kaj Dio helpos vin!“

Kompatinda Marko! Li havis koron fortan kaj preparitan ankaŭ por la plej malfacilaj provoj de tiu ĉi vojaĝo. Sed kiam li vidis ĉe la horizonto sian belan Genevon malaperanta kaj sin trovis sur la alta maro, sur tiu ĉi granda ŝipo, plena je elmigrantaj samlandanoj, sola, konata de neniuj homoj kun la malgranda sako, kiu entenis lian tutan havaĵon — tiam ekkaptis lin subita senkuraĝeco.

Dum du tagoj li kuŝis, kiel hundo, sur la antaŭa parto de la ŝipo, preskaŭ nenion manĝante kaj premata de granda bezono al plorado. Ĉiaj malĝojaj pensoj iris tra lia kapo, kaj la plej malĝojaj, plej terure ĉiam revenis plej persite: la penso, ke lia patrino estas mortinta.

En sia sentrankvila kaj ofte interrompita dormo li vidis ĉiam la vizaĝon de nekonato, kiu kun la esprimo de kompato rigardis lin kaj poste flustris en lian orelon: „Via patrino estas mortinta.“ Kaj tiam li vekĝis, elpuŝante obtuzan krion.

Tamen li ree ekkuraĝigis iom kaj reesperis unuafoje ekvidante la Atlantikan Oceanon, post kiam ili estas traŝiritaj la markolon de Gibraltar. Sed la nepremiteco estis mal-

原文 6 p. より) 父親は出帆間際の、汽船の階段のところで目に涙を一ばい浮べて、最後の接吻をして云つた。「勇氣を出すんだぞ。なあマルコ、孝行の旅をするんだから神様も守つて下さらうで」

可愛そうなマルコ: この船旅にどんなに辛いことがあろうと、それには堪えるだけの強い覺悟を持つて居たが、美しい故郷のジェノアが水平線のあなたに消えて行き、そして大海原に出て來た此の大きな汽船の上には、同國の移住民が群つて居たが、誰一人として知人はなく、自分はたつた一人全財産の入つてゐる小さなすた袋を持つてゐるきりかと思ふと、にはかに心細くなつて來た。

で二日間さ云ふものは軸に犬の様にうづくまつたまゝ、碌々物も食はずに泣きたい氣ばかりしてゐた、色々な悲しい考へが彼の心に浮んで來た、そして一番悲しく、一番おそろしく、最もしつこく浮んでは來、また浮んでは來したものは——母親が死んでしまつたさ云ふ考へだつた。

さざれさざれの、まんじりさもしない眠の中で、彼は絶えず見知らぬ顔を見た。その顔が憐れむやうな様子をしてながら、ちつと彼を見つめて、そして耳許で囁いた。「お前のお母さんは死んでしまつたよ」と。其の途端、彼は目が覺めて鈍いうめきを吐き出した。

でもジブラルタル海峡をすぎた後で、はじめて大西洋を見た時には、いくらか元氣を回復した。しかし、それもほんど暫のことだつた。此の渺茫とした、しかもいつでも滑らか

longe daŭra. Tiu ĉi grandega, ĉiam samaspekta maro, la kreskanta varmego, la malĝojeco de ĉiuj mizeraj homoj ĉirkaŭantaj lin, la sento de propra soleco revenis tiom forte ke ĝi minacis subpremi lin.

La tagoj, kiuj senenhavaj kaj monotonaj intersekvis, konfuziĝis en lia animo, kiel okazas ĉe malsanuloj. Ŝajnis al li, kvazaŭ li jam estis dum unu jaro sur la maro. Kaj ĉiumatene, kiam li vekigis, li sentis denovan ektimon, senti sola en tiu grandega akvodezerto, vojaĝante al Ameriko.

Kaj la flugantaj fiŝoj, kiuj ofte falis sur la ferdekon, la admirindaj sunsubiroj de la tropikaj landoj kun la grandegaj nuboj el fajro kaj sango, la nokta marlumado, per kiu la tuta oceano ŝajnas esti brulanta lafomaro — ili ŝajnis al li ne esti realaĵoj, sed aspektoj vidataj en sonĝo.

Estis tagoj, dum kiuj la vetero estis malbona, dum kiuj li restis enfermita en la kajuto, kie ĉio skuiĝis kaj dancis meze de timiga ĥaoso de plendoj kaj malbenoj; li kredis, ke lia lasta horo venis. Alian tagon la maro estis trankvila kaj flava; sed regis netolerebla varmego kaj terura enuo — senfinaj kaj malserenaj horoj, dum kiuj la ŝvitantaj vojaĝantoj, senmove kuŝantaj sur la tabuloj, aspektis kiel mortintoj.

La vojaĝo ne finiĝis — akvo kaj ĉielo, ĉielo kaj akvo, — hodiaŭ kiel hieraŭ, morgaŭ kiel hodiaŭ — nun — ĉiam — eterne! Kaj dum horoj li staris apogita al la balustrado kaj rigardis la senfinan maron, ĉagremita maltrankvile pensanta al sia patrino, ĝis liaj okuloj fermiĝis sur lian sultron.

na海、上昇して来る暑さ、彼のまわりにある貧しい、人達のみじめな有さま、自分のたつた獨りぼつちのこさなごが、またしても彼の心を重くして行つた。

折り返し打ち續いて来る空虚な單調な日日が恰度病人の場合の様に彼の心の中で混沌としてゐた。彼はもう一年も海の上に居た様な氣がした。そして毎朝、目が覺めると、その渺茫とした水の廣がりの上に、アメリカへ行く途上に、自分が獨りぼつちであるのに氣がついて、新なおどろきを覺えるのであつた。

(原文 7 p.) 時々甲板に落ちて来る飛び魚や、大きな雲を焰と血とのやうに彩つて洗んで行く熱帶地方のおどろくべき日没も、大洋を一面に燃えたゞせてまるで溶岩のやうにする夜の燐光も、彼には本當のものとは思はれず、夢の中で見てゐるものゝ様に思はれた。

悪い天氣がつゞいた日には、船室に閉ぢ籠つてぢつとしてゐた、そこでは泣くやらわめくやらの混亂の中にすべてのものが踊り狂ふのであつて、彼は自分の最後の時が來たのではないかとも思つた。また、海が風いで黄色くなるさ、たまらなく暑いやな退屈がつゞきあきあきする程果てしのない、みじめな時には喘ぎ切つた乗客達は板の間に身體をぐつたりと横へて、まるで死んだものゝ様に見えた。

この航海は果てしがなかつた。——海と空、空と海、——今日も昨日と同じく、——あすも亦今日の如く——現在——いつまでも——永久に續くのだつた、で此の長い時間の間彼はてすりに倚りかゝつて、その果てもない海を呆れ返つて眺めながらも心もさなく母親の事を考へてゐた、(さいつの間にか)彼の眼は閉がつて頭がさがつた (352 頁へ續く)

新刊紹介 (RECENZO)

大島 義夫

★POR RECENZO, K. R. C. Sturmer, 12×18 cm. p. 60, eld. Eep. Publishing Co. London, 1930.

好學心に燃えた労働者の青年、労働學校での講義に初めて生き生きした生活に觸れ得た profesoro. 有閑なブル學生の生活を物語つたもの。現在の英國の知識階級を知るにはよい temo である。

★SEGRENETO, Kenelm Robinson, 14×20 cm. p. 158, eld. de la aŭtoro, London, 1930.

近代的短篇を15ばかり集めたもの。作者は英國の esp-ist だけあつて、いやに角ばつた禮儀正しい rakonto のあつまり。

★FERA KALKANUMO, Jack London, trad. de Georgo Saville el angla lingvo, 14×20 cm. p. 360, eld. Sennacieca Asocio Tutmonda Leipzig. 1930.

アメリカの社會主義作家ジャック・ロンドンの大作。膨大な長篇もの。内容は profesoro の娘が、労働者の生活状態に眼を向け、いろいろの疑問を解決しつつ、遂に社會運動指導者の妻となり、夫とともに勇敢に活動することを主調とし、獨占資本主義の「鐵の踵」に蹂躪されているアメリカの社會生活をよく描いてある。360 頁に餘る長篇でわあるが譯文は割合にしつかりしている。(學會圖書部在庫)

★ESPERANTO-LERNOLIBRO POR POPOLLERNEJOJ, A. Degen. 15×22 cm. p. 67, eld. Ferdinand Hirt k. Sohn, Leipzig, 1930.

學校に於ける esp. 教育の最も進歩しているドイツで、ドイツ esp. 教員協會の支持の下に出版された esp. 教科書。美しい色刷のさしえ十数枚カット數十。子供むきに日常生活を題材として會話、物語、一口ばなし、歌等で36課をみたしている。Rekta metodo によつて用いられるための充分注意がついている。すべての esp. 講習の gvidanto わ必ず一讀すべき價值がある。(近日圖書部着)

★プロレタリア・エスペラント講座 第1巻 プロ科學 esp. 研究會編, 11×19 cm. p. 165, 鐵塔書院發行, 定價 80 錢

プロレタリア科學研究所のエスペラント研究會によつて計畫された、全6巻に及ぶプロエス講座の第1巻。今までの教授法の型を破つて充分なプロレタリア意識を持つて全然新

しい方針の下に編輯されている。全巻を4週28日に分ち、各日に總論社會生活と言語、言語の本質、法則、及び實習についてと文例とを設け、第1巻わ發音と簡単な文章の研究と esp. 學習に必要な社會史的言語學的豫備知識とに當てられている。しかも多くの挿畫は容易な内容と相俟つて外國語を全然知らぬ人にもたやすく esp. がものになるように助けている。

★プロレタリアエスペラント必携, 小坂狷二伊藤三郎著, 13×19 cm. p. 300, 東京神田鐵塔書院發行, 定價 2 圓

これもプロレタリア向きに編まれた獨習書である。言語一般についての總論、新鮮な新しい生活についての教材、新しく體系づけられた文法法則とわ、今までの獨習書に對してこの書の持つ大きな特長である。

殆どすべての語學研究者の抱いている文法即ち言語の誤つた考えを破つて、實生活との密接な關聯の中に言語を把握する新しい劃期的方針が本書の中に十分現われている。この點で單に初歩者のみでなく、多くの esp-isto に本書の與える貢獻は大きいものであらう。

★悲惨のさん底, シエロシエヴスキ著, 黒川眸譯, 13×19 cm. p. 209, 東京牛込長崎書店發行, 定價 80 錢

Kabe の名譯になる “Fundo de mizero” の翻譯。シベリアの荒野に死を待ちながら生きている一群の癩病患者の生活わ讀むもの、眼を覆わしめる。この本が同じ病に悩む東村山の全生病院の同志によつて譯出されわが國の癩病撲滅運動に一炬火を與え得たことは喜ばしい。(圖書部取次)

★ESPERANTO AS AN INTERNATIONAL FACTOR, de W. D. Wallis, 15×23 cm. p. 11.

Minesatu 大學の社會學教授たる著者がその著 “Readings in Sociology” の中で esp. を論じた一章を抜いて別刷にしたもの。

★何から讀むべきか? 無産社編輯部編, 12×19 cm. p. 88, 定價 30 錢, 東京麴町無産社發行, 1930.

大衆黨系の労働者啓蒙運動の一機關たる無産社の無産者必讀圖書解題。その一章が esp. 研究法に當てられているが、調査がすべて古いのわ遺憾。

通俗科學欄

1)

産兒制限

について

浅田 一

(前號より續く)

naskkontrolo 生産
制限、産兒制限。

laŭ la diro de ...

の言によれば。

toleri 認容する。

nutri 養ふ。

interne de tia kate-

gorio そうした

範圍に於て。

„Rantos“ ラントス。

malfortacida 酸味

弱き。

„Koromex“ コロメ

クス。

imitaĵo 模造品。

inteligentulo 識者。

moralo 道德。

konsento 同意。

propono 提議。

konsila ofico 相談

所。

inaŭguri 開く。

dezironto 志望者。

ekzameni 取調べ

る。

enspezo 收入。

permeskarto 許可

書。

kuracisto 醫者。

sigeli 封印す。

konsil-pet-ont-ino,

ekzameni 診察す

る。

maltolerebla mal-

sano je gravedo

妊娠に堪えられ

ぬ病氣。

indici 表示す。

subskribo 署名。

apotekisto 藥劑師。

direkto permesa 許

可指示。

trankvile 安心し

て。

Se ne さもなくば。

punmonsumo 罰

金。

pro sia krimo 自分

の犯した罪で。

publikulino 公娼。

policofico 警察署。

transdoni 貸す。

SCIENCA PAROLEJO

PRI NASKKONTROLO. (2)

de D-ro Hazime Asada.

(daŭrigata de la lasta numero)

Laŭ la diro de la doktoro kiun mi vizitis, oni nur permesas instrui la metodon naskkontrolan 1[§] al mal-sanulino kiu ne plu tolerus naskon, 2[§] al malriĉulino, kiu ne plu povas nutri sian plian infanon. Interne de tia kategorio la doktoro instruas la metodon.

Ili precipe instruas metodon kun holanda ilo, ĉapforma, nomita „Rontos“ kaj malfortacida medikamento, nomita „Koromex“. Sed la ilo kostas tre multe. Ĉe ni jam oni ekvendas imitaĵojn de „Rantos“ pli malkare. Tamen, nur kompare riĉaj inteligentuloj povas utili ilin, sed malriĉuloj restus por eterne mizeraj. Kaj plue la moralo perdiĝas. Patrujo pereus.

Tial mi deziregas vian konsenton al mia sincera propono ke oni starigu leĝon por reguli naskkontrolon. Oni inaŭguru en la urbdomo oficon konsilan por naskkontrolo. Dezirontino venu konsilpeti tien. La oficestro ekzamenas la nombron de infanoj kaj la enspezon de la vizitintino laŭ libroj de la urba loĝantaro ktp. Kaj se la enspezo ne permesus plian nutradon de infanoj pluaj, do li donus al ŝi permeskarton.

Se ŝia enspezo ne multe mankus, do li ne permesus, sed li donas al ĉiu konsilpetontino unu karton sigelitan de li mem, sur kiu oni enskribas ilian ĉiumonatan enspezon kaj la nombron de iliaj infanoj, kaj konsilas ke ili vizitu kuraciston. Kuracistoj ekzamenas korpon de konsilpetontinoj kaj se malsano maltolerebla je gravedo troviĝus, do li indicus tion sur la kunportita karto.

Se unu el du subskriboj de la oficestro aŭ de la kuracisto en la direkto permesa troviĝus sur la karto, do la karthavanto povus aĉeti ilojn kaj medikamentojn ĉe apotekisto trankvile. Apotekisto nur povas vendi ilin al tiu, kiu montras la permeskarton. Se ne, li devas pagi nemalmultan punmonsumon pro sia krimo, kaj se li ripetus la krimon, do oni malpermesus al li komercadon.

Li povas vendi ilin al publikulinoj kiuj ricevis permeskarton por sia propra profesio de la flanko de policofico. Se tiaj virinoj transdonus ilojn kaj medikamentojn

al tiuj, kiuj ne posedas permeskarton, estus punota, la ricevinto aŭ ricevintino ankaŭ.

Tiamaniere nur tiuj kiuj rajtas havi ilojn kaj medikamentojn, povus kontroli naskon. Tamen por aĉeti ilin oni bezonas monon. Mezklasanoj kaj riĉuloj povas aĉeti ilin trankvile, sed malriĉuloj ne. Por malriĉuloj oni devas konsili kun afableco pri la plej bona malkara metodo, kaj se necesas, donu ilojn al ili senpage per la ekonomia subteno de varbitoj riĉaj.

Ĉi-tia propono mia estas tre urĝa, ĉar nuntempe tutmonda emo erotikisma jam ekimbibas nian patrujon. Sentemaj, senrezonaj gejunuloj estas droniĝantaj en tiu erotikisma fluego. En nenia epoko erotikismo alportis prosperon, ĝi ĉiun nacion pereis, se ĝi imbibis.

Nur kontroli la naskon de infanoj senpatraj aŭ ekstergeedzaj per severa puno. Legitimaj geedzoj ne kontroli naskon krom ekonomia aŭ saneca krizo. Virgaj gejunuloj ne malĉastigu unu la alian! Virguloj nur povas edziĝi al virgulinoj, kaj virgulinoj neniam edziniĝu al jam malvirgigitaj junuloj. Ni jurmedicinistoj povas ekspertizi ĉu vi estas virgaj aŭ ne, kaj kiu estas la vera patro de iu infano.

Fine mi sciigas al vi ke ekzistas du specoj de naskkontroloj, per-ilaj kaj sen-ilaj. Sen-ila metodo bezonas fortan volon. Ĝi estas ne malfacila por individuoj post 40 jaraĝo, kiuj jam havos 4-5 infanojn. Junuloj nur nasku legitime kaj senkontrole. Se vi havas sufiĉe da infanoj, do venu demandi al kuracistoj, kiuj bone sciis ĉian metodon.

En Hokkaido, Karafuto, Ĉoosen kaj Taiŭan ankoraŭ restas multe da nekulturita tero. Oni povos ŝpari fermentigon de alkoholo el rizo. Progreso de la scienco de nutraĵo instruos al ni justan kvanton necesan, kiu devas esti forte pli malmulta ol la nuna. Tiamaniere ni havas multe da rimedoj por solvi nutraĵan problemon.

En Francujo jam delonge nacioj ne plu plimultiĝas. En Germanujo ankaŭ lastatempe minacas malmultiĝo de popolo. En Usono plimultiĝas nur enmigrantoj kaj iliaj idoj. En Britujo ankaŭ ekkomencis malmultiĝi nasknombro. Tiel niaj du najbarlandoj pereas fine pro la manko de nasko.

Patriotismaj pioniroj ĉie laŭtvoĉe krias ke ni devas naski. En ĉiu regno tutmonda nun regas movado por naskplimultiĝo. Ni devas kompreneble malaltigi mortecan

kontroli 調節する。
ekonomia subteno
経済的支持。
varbi 募集す。
ĉi-tia 斯うした。
urĝa 焦眉の。
emo 傾向。
erotikisma 劣情的な。
imbibi 吸収す。
fluego 洪水。
ekstergeedza 野合の。
legitima 正當の。
malĉasti 醜行す。
virgulo 童貞。
malvirgigi 童貞を犯す。
jurmedicinisto 法醫學者。
ekspertizi 鑑定す。
per-ila 道具による。
sen-ila 道具なしの。
volo 意志。
individuo 個體。
senkontrole 制限せず。
nekulturita 未耕作の。
ŝpari 節約す。
fermentigo 醱酵。
progreso de la scienco de nutraĵo
營養科學の發達。
malmultiĝo 減少。
nutraĵa problemo
食料問題。
minaci 脅かす。
enmigranto 移民。
nasknombro 出産數。
patriotisma pioniro
愛國的先覺者。
morteco 死亡率。

praavo 曾祖父。

epoko de Meizi 明治時代。

penso kaj ago 思考と行爲。

sen-rezon-iĝi. 雷同する。

ĉasteco 操。

kontraŭ-nask-kontrol-ismo 反産兒制限案。

sincereco 誠意。

de novnaskitoj. Kaj ni devas reguli la naskkontrolon per la leĝo.

Karaj ĉeestantoj, el kies praavoj, majstro Hukuzawa, estis unu el la plej grandaj pioniroj en nia nacio en la epoko de Meizi, mi deziregas ke vi gvidu proksime venontan epokon de nia lando per korekta, justa penso kaj ago kiel viaj praavoj. Ne blindiĝu, ne senrezoniĝu! Ĉasteco kaj pureco estas grundo de moralo. Erotikismo pereos nian patrujon. Alte staru, laŭte krii kaj klopodu ke nia kontraŭnaskkontrolismo estas urĝa problemo por ni, japanoj.

Finfine mi kore dankas vin por via sincereco, kun kiu vi aŭskultis min, kaj ankaŭ al S-ro Morihisa por lia afableco, kun kiu li tradukis mian esperantan paroladon en nian nacian lingvon.

通俗科學欄 (2)

なめくじと
かたつむり

澁木柿郎

limako なめくじ。

heliko かたつむり。

araneo くも。

skolopendro むかで。

al-glu-iĝi くつつく。

tentaklo 觸手。

sintrudi 出しや張る。

ekspansio 膨脹。

konstrikto 收縮。

muskolo 筋肉。

evidente 明白に。

farado de ŝelo 殻の構成。

betono コンクリート。

tavolo 層。

konsisti el ...より構成する。

animala materio 動物質。

sekrecii 分泌する。

sako 囊。

LIMAKO KAJ HELIKO (1)

LAU WILFRED MARK WEBB.

K. Ŝibuki

En la ĝardeno estas aĵoj kun piedoj, — araneoj kun ok, skolopendroj kun multaj — insektoj kunflugiloj, kaj vermoj rampaj, sed la heliko estas estaĵo iom diferenca.

La heliko moviĝas kviete kun la helpo de la tuta subparto de sia korpo, kiu algluiĝas al la grundo. Ĝiaj okuloj ne nur elstaras el ĝia kapo, sed sidas sur la pintoj de sentemaj tentakloj, kaj povas sintrudi distance antaŭ la kapo.

Estas necese rigardi tiajn animalojn, kiel ili efektive trairas de loko al loko sur peco da vitro. Tiam rimarkinda serio da ondetoj, kaŭze de la ekspansio kaj konstrikto ĉe la muskola subparto de la estaĵo, kiu estas nomata „la piedoj,“ estas tre evidente videbla kaj tio rezultas, ke la antaŭa parto malrapide sintrudas antaŭen, kaj la postan tiras post tio.

La farado de ŝelo multe similas al la konstruado de betona muro. Estas tri tavoloj, la plej ekstera maldika, konsistanta plejmulte el animala materio kaj sekreciita per la rando de la sako aŭ mantelo, kiu interne kovras

la ŝelon. Tiu ĉi korna tavolo donas la freŝan aspekton al la ŝelo, kaj dum ĝia konstruado respondas al unu serio da tabuloj por mur-farado, dume la surfaco de la mantelo faras la alian, kaj la rando denove elverŝas mason da kalkaj materioj en la spacon, ĝuste kiel la konstruisto metus sian miksaĵon de ŝtonoj kaj cemento. Tiu ĉi kalka sekrecio kristaliĝas kaj formiĝas la duan tavolon, al kiu la tria, simile al la perlamoto en ostro, estas aldonata per la surfaco de la mantelo.

En la maro kaj en sensala akvo multaj parencoj de helikoj, kiel la litoreno, povas elfermi siajn domojn, kiam ili retiriĝas en ĝi, kun ŝela kovrilo alfiksitita al la fino de la korpo. Iuj, el la veraj helikoj faras tempan kovrilon en somero por gardi sin mem de elsekiĝo kaj en vintro kiel protektaĵon kontraŭ la malvarmeco aŭ malamikoj, kiuj ne povas sukcesi por rompi ĝiajn ŝelojn.

La kornoj aŭ tentakloj sin trovas ordinare kvar, tamen ĉe kelkaj el la plej etegaj helikoj nur la supra paro estas kreskinta, kiu elportas la okulon. La plej eta tuŝo kaŭzas al la muskolo kuntiriĝon kaj tiras la okulon en la kapon. Aliflanke la okulo estas etendita per la mallongigo de l' muroj de la tentakloj.

Kelke da specoj, kiuj vivas subtere en la mallumo, fariĝas blindaj.

Estas kurioze, ke la spirado de heliko aŭ limako estas komparebla al la aerumado de ĉambro kun malfermita fenestro. Se unu el la animaloj estas rigardata, kiam ĝi rampas, granda aperturo en la dekstra flanko de ĝia korpo estas videbla. Tio ĉi respondas al la fenestro. En la heliko ĝi sintrovas la bordo de la ŝelo, kaj plej bone oni povas vidi ĝin de la sub-flanko, kiam la animalo estas surrampanta sur vitro. En plejmulto da limakoj ĝi sintrovas apud la margeno de la ŝildo, kaj en diversaj pozicioj en diferencaj genroj.

En ĉiuj okazoj ĝi kondukas en la pulman ĉambron (responda al la ĉambro), kies flankoj estas abunde provizitaj per sangaj angioj sinsekvanta kun la koro, kaj tra ĝiaj muroj oksigeno eniras kaj karbon-acid-gason forlasas.

(daŭrigota)

mantelo 外套膜。
korna tavolo 骨質層。
respondi 相當する。
elverŝi 吐き出す。
kalka sekrecio 石灰質分泌物。
kristaliĝi 結晶す。
formiĝi 形成する。
perlamoto 眞珠母。
litoreno きさご。
el-fermi 閉める。
re-tiriĝi 退込む。
al-fiksi 固着さす。
tempa kovrilo 一時的の蓋。
de esti elsekiĝo 乾燥されることから。
protektaĵo 保護物。
korno 角。
elporti 持ち出す。
aliflanke 他方に於て。
etendi 伸ばす。
speco 種。
subtere 地下に。
spirado 呼吸。
kurioze 奇しくも。
aerumado 換氣法。
aperturo 氣孔。
bordo 縁。
margeno 椽。
ŝildo 楯(ナメクジの背にある菱形の部分)。
pozicio 位置。
genro 屬。
konduki 到る。
pulma ĉambro 肺室。
abunde 夥しく。
provizi 貯へる。
sanga angio 血管。
oksigeno 酸素。
karbon-acid-gaso 炭酸ガス。

Notoj pri l' Bibliaj Vortoj

宇都宮 正

(6)

8. Grego. 群 (家畜の)

En la Sankta Biblio la vorto „grego“ estas uzita por esprimi la aron de l' brutoj.

„Kaj li vidis: Jen estas puto sur la kampo, kaj tri *gregoj* da ŝafoj kuŝas apud ĝi; ĉar el tiu puto oni trinkigadis la gregojn; kaj granda ŝtono estis sur la aperturo de la puto.“

(Genezo 29²)

En la Hachette-genezo ni legas la version jene.

„... kaj tri *aroj* da brutoj kuŝas apud ĝi: ĉar el tiu puto oni trinkigadis la brutarojn;...“

Kiel mi jam faras, mi prezentas ĉisube kelke da ekzemploj.

„Kaj li pasigis tie la nokton. Kaj li prenis el tio, kion li havis sub la mano, donacon por sia frato Esav: ducent kaprinojn kaj dudek virkaprojn, ducent ŝafinojn kaj dudek virŝafojn, tridek mamnutrantajn kamelojn kun iliaj idoj, kvardek bovinojn kaj dek virbovojn, dudek azeninojn kaj dek azenidojn. Kaj li transdonis en la manojn de siaj sklavoj *ĉiun gregon* aparte, kaj li diris al siaj sklavoj: Iru antaŭ mi kaj lasu liberan interspacon inter unu *grego* kaj alia.“

(Genezo 32¹³⁻¹⁶)

„Tamen mi kolektos vin tutan, ho Jakob, mi kolektos la restaĵon de Izrael, Mi kunigos ilin kiel ŝafojn en ŝafejo; kiel *grego en gregejo* ili ekbruos de multhomeco.“

(Miĥa 2¹²)

En la revizita eldono de N. T. la vorto estas enkondukita.

„Kaj malproksime de ili estis granda *grego da porkoj*.“

(Mateo 8³⁰)

„Kaj en tiu sama regiono estis paŝtistoj, kiuj kamploĝis kaj nokte gardis sian *gregon*.“

(Luko 2⁸)

Krom la Biblio mi trovis la vorton nur unufoje uzita de Dro Zamenhof en Fabeloj I.

„Li pelis antaŭ si tutan *gregon* da bovoj kaj bovinoj;...“ (Andersen Fabeloj I p. 15)

La Izraelidoj estis nomado kaj la Biblio

estis ilia literaturo, kaj tial ili prezentas la rilaton inter Dio (aŭ Kristo) kaj la kredantoj per tiu inter paŝtisto kaj ŝafaro. Ĉi tio estas tre grava por bone kempreni literaturon de l' Biblio. Se oni ne konas ĉi tion, eble oni ne povas trafe kompreni la veran kaj belan sencon de l' sube metotaj versoj.

„Kaj aliajn ŝafojn mi havas, kiuj ne estas de ĉi tiu gregejo; ilin ankaŭ mi devas alkonduki, kaj ili aŭskultos mian voĉon; kaj estas unu grego, unu paŝtisto.“

(Johano 10¹⁶)

„Tiam diris Jesuo al ili: Vi ĉiuj stumblos pro mi dum ĉi tiu nokto, ĉar estas skribite: Mi frapos la paŝtiston, kaj la ŝafoj de la grego diskuros.“

(Mateo 26³¹)

„Ĉar mi ne hezitis anonci al vi la tutan intencon de Dio. Gardu vin kaj la tutan gregon, en kiu la Sankta Spirito faris vin episkopoj, por nutri la eklezion de Dio, kiun li aĉetis per sia propra sango. Mi scias, ke post mia foriro eniros inter vi kruelaj lupoj, ne lasante la gregon sendifekta.“

(Agoj 20²⁷⁻²⁹)

Tra la sperto de l' ŝafista vivo David elvidis la manon de Dio kaj li psalmis:

„La Eternulo estas mia paŝtisto; mi mankon ne havas... Eĉ kiam mi iros tra valo de densa mallumo, mi ne timos malbonon, ĉar Vi estas kun mi...“ (Psalmaro 23^{1,4})

Per bela parabolo Jesuo elmontras profundan amon de Dio kiu serĉas forvagantan animon.

„Kaj Jesuo parolis al ili la jenan parabolon, dirante: Kiu el vi, havante cent ŝafojn kaj perdinte unu el ili, ne forlasas la naŭdek naŭ sur la stepo, kaj iras, por serĉi tiun, kiun li perdis, ĝis li ĝin trovos? Kaj trovinte, li ĝin metas sur siajn ŝultrojn, ĝojante. Kaj reveninte domen, li kunvokas siajn amikojn kaj siajn najbarojn, dirante al ili: Ĝoju kun mi, ĉar mi trovis mian ŝafon, la perditan. Mi diras al vi, ke tiel same estos ĝojo en la ĉielo pro unu pekulo, kiu pentas, pli ol pro naŭdek naŭ justuloj, kiuj ne bezonas penton.“

(Luko 15³⁻⁷)

U. S. S. R. の 刑 務 の 片 影

— Kolobaskin 氏の手紙より —

(京城 桑原氏稿)

En mia patrujo la diversajn krimulojn la juĝo juĝas laŭleĝe konforme al la graveco de farita krimo.

En la malliberejo forestas batpunoj. La malliberigitaj krimuloj povas labori laŭforte diversajn laborojn konforme al iliaj kapableco.

Okazas amnestioj, dank' al kiuj la limtempo (longeco de malliberigo) difinita de la juĝo povas esti mallongigita se la krimulo montris sin dum la mallibereja vivo bankonduka, plibonigita, forlasinta sian inklinon je krimulo.

En la malliberejo de mia lando funkcias kluboj, kie ofte estas organizataj spektakloj por ĝemalliberuloj.

Estas eĉ eldonataj la t. n. „Murgazetoj“ kaj aperas eĉ la centra ĵurnalo por malliberuloj.

La enhavo de ili estas interesa. Ĉu io simila estas en via lando? k. t. p.

IV

Pasis tri tagoj, sed ankoraŭ oni ne povis enterigi la kadavron. Dume Wang multfoje iradis al la domo de Bokne por konsiliĝi kun la edzo, kaj de tempo al tempo la edzo de Bokne vizitis Wang. Inter ili certe estis io negoca.

Pasis denove tri tagoj, kaj en la nokto la kadavro estis alportita el la domo de Wang al la edzo de Bokne. Antaŭ la kadavro kunsidis tri homoj: unu estis la edzo de Bokne, la dua Wang kaj la alia estis kuracisto de la ĥin-medicino. Mute el la poŝo elprenante mon-paperojn, el kiuj ĉiu valoras po dekspesmilojn, Wang donis tri al la edzo de Bokne kaj du al la kuracisto.

Je la sekventa tago oni enterigis la kadavron en la komuna tombejo per la diagnozo de la kuracisto, ke Bokne mortis pro la kongesto.

— FINO —

自轉車旅行記 (3)

[日本に於ける印象] 佛人 ペレル 手記

Mi salutas al la brava popolo de Japanlando. Kaj dediĉas ĉi artikolon, por ĉies rigardoj; ĉar ja: dank' al Japana gazetaro ĉiuj m'n konas. Por ni okcidentanoj, Japanlando estas vere mirinda lando. Mirinda ĝi estas, unue pro ĝia malproksimeco, due geografia izoleco, k. unueco kaj fine pro ĝiaj ne ofte kompareblaj naturaj vidindaĵoj. Moroj, kutimoj k. t. p.

La unua impresio kiu frapas la cerbon de la vizitanto kiel mi, estas la multobleco, denseco, de la popolaro.

Kutiminta mi ja estis, al vasteco k. maldenseco de Siberio, kie sur nemezureblaj spacoj, vivas dise malgrandaj popoloj aŭ triboj.

Ankaŭ klimato min surprizis, kvankam mi s'is pri ĝi. Tamen post rigoreco de Sibleria, klimato, mi alveninta en Japanlando, preskaŭ kredis trovi mian patrujon.

Ja simileco inter ambaŭ landoj, pri animalaro, floraro, klimato tre ofte paraleligas. Jen ekzemple, mi revidas bambuon, kverkon, pizon, vinberojn, fruktaron, legomaran mildecon, floraron, tute ne konataj en Siberio.

Ankaŭ tre bona surprizo por mi, estas revidi vojojn. Vojoj, sur kiu veturas multaj aŭtomobiloj, bicikloj, k. t. p.

Tre maloportuna estas por mi la Japana skribmaniero kaj pro tio tamen, la multeco de la vojaro, estas por mi malfacilaĵo. Oni povas miri, ke mi esprimas mian surprizon trovi vojojn, mi la mondvojaĝanto. Sciu do scivolema leganto, ke en Siberio, tute forestas vojoj. Ekzistas nur, abomenaj irejaĵoj kotegozaj, sablozaj, ne apartigeblaj por biciklveturanto.

Cetere estas pro tio ke mi veturis la tutan Siberion per biciklo, sur reloj de fervojo Transsiberia. Ankaŭ mire mi rimarkis, ke Japanan vojon ne plu uzas estveturiloj. Tion klarigas al mi la tro ofta malboneco de la vojaro. Ankaŭ mi ofte tre bedaŭris ke oni ankoraŭ ne ordigis la vojmontrilaron, laŭ Eŭropa maniero. Tio estas starigi sur ĉiuj konvenaj lokoj, videblajn kilometrfostojn por la uzantoj de la vojoj.

Pro multaj kaŭzoj, Japanlando estas unu el la plej vizitindaj en la mondo. Tamen mi opinias ke postrestoj de arkaikaĵoj kiel ekzemple la hieroglifoj, iaj malnovaj aranĝoj, nur malutilas disvolviĝon, moderniĝon de

【註】 dediĉi 捧ぐ。 geografia izoleco 地理的孤立。 unueco 統一。 denseco 密度。 dise 散り散りに。 rigoreco 苛酷さ。 kutimita 慣れた。 kverko かしわ。 vinbero ぶどう。 legomo 野菜。 surprizo おどろき。 maloportuna 不便。

malfacilaĵo 難事。 mondvojaĝanto 世界漫遊家。 scivolema 好事の。 ir-ej-aĉo 悪い道。 kotegoza 泥まみれの。 apartigebla 見分け得る。 vojmontr-il-aro 道しるべ。 kilometro-fosto 里程標。 post-resto 遺物。 arkaikaĵo 古物。 hieroglifo 難

la lando. Ja modernaj tempoj, postulas modernecon. Ekzemple, nenie en la mondo mi vidis tiom da bicikloj kiel en Japanujo. Samtempe, neniue lando, en la mondo tiom da naturaj vidindaĵoj. Spite tion mi surprize rimarkis, ke ĉi tie turismo ne estas tiom disvastigita, kiel en Eŭropo, ne emas koni sian landon?

Por mi persone, Japanlando plaĉis. Ja, la originaleco de ĝia moralo, prezentas logikajn trajtojn, kiuj faras de la lando unu el la plej kuriozaj landoj en la mondo.

Ĝenerale plaĉas la lando al mi, pro okulfrapa higiena zorgemo de la popolo. Tamen, oni povas trovi paradoksojn.

Pri loĝejo, la domoj estas oportunaj tial, ke ili ebligas aeron cirkuladi libere. Sidkutimoj k. dormkutimoj estas bonaj pro tio, ke oni ne bezonas meblojn. Simpleco k. facileco rezultas por la purigado. Ja kie estas mebloj ĉie kuŝas polvo pli malpli. Manko de internaj muroj pro la samaj kaŭzoj ŝajnas esti ankaŭ bona. Ja tiel ne pendas bildoj aŭ ne estas papero kiuj ĉiam estas polva nesto. Pli supre mi laŭdis kutimon sidi sur la matoj, tamen mi kredas ke por labori, ĝi estas nek oportuna nek higiena. Por somero, al mi tre plaĉas la vestmaniero, kiu estas oportuna nur por ne labori tamen.

Mi opinas ke kutimo sensuiĝi por eniri en la domon, estas plej laŭdinda. Pro tio la formo de la piedvestoj, ne estas tiel ridinda al mi, kiel opinias Eŭropano malbone informita.

Virina zon-ornamaĵo estas bela k. ankaŭ har-plektaĵo. Sed mi riproĉas, ke la unua estas malhigiena pro tio ke ĝi malebligas sangon k. aeron de cirkulado k. tro premas la subajn organojn.

Pro troeco da ŝmirajo la har-plektaĵa modo ankaŭ estas malbona malebligante cirkuladon.

Kvankam surprizita je la komenco, mi preferas la vesta-liberecon de la virinoj en la vilaĝoj. Ĝi ja estas la plej logika vestmaniero por somero. Pro tio la duonnudeco de la virinoj ne estas riproĉinda k. estas tiom morala kiel la hipokrite kalkulitaj duonfermitaj vestoj de iaj Eŭropaj belulinoj.

Manĝkutimoj ankaŭ plaĉas al mi, ĉar ili estas vegetaremaj kaj mi bone komprenas kial oni manĝas tiom da fiŝoj. Rizo tiom valoras kiel pano, ĉar ĝi ne estas fermentitaĵo. La fakto manĝi per bastonoj nun estas tre komprenebla al mi, pro aranĝo de manĝa procedo. Ĝi ankaŭ estas opor-

解文字。disvolviĝo 進展。moderniĝo 現代化。
spite tio それにも係はらず。turismo 遊歴。
persone 個人として。moralo 道德。logika
trajto 論理的特色。paradokso 悖説。cirkuli
流通す。nek oportuna nek higiena 便利でも

なし衛生的でもない。sensuiĝi はきものをぬ
ぐ。piedvesto 足袋。informi 報告す。zon-
ornamaĝo 帯。har-plektaĵo 結髪。hipokrite
偽善的に。vegetarema 菜食好み。fermentitaĵo
醗酵物。fakto manĝi per bastonoj 箸で食ふこ

tuna, ĉar ĝi senigas manĝilon de senutilaj instrumentoj kiel tranĉilo, forko k. t. p.

En Siberio mi vidis grandajn terspacojn ne-prilaboritajn. Ĉi tie, malvasteco de la lando, k. denseco de la popolaro igis prilabori la tutan teron eĉ la plej malgrandan teron, pro tio la lando estas modelo de kulturmetodoj. Oni kredus vivi en vasta oazo, tiom la kulturmetodoj estas intence faritaj. Ebena rizujo lerte d'stranĉita per la irigaciaj kanaletoj, kun ĝia bela, verda koloro elegante alternas kun la severececo, fiereco, imponeco de la arbarozaj verdaj montoj. Ĉio harmoniiĝas kviete laŭdante la zorgadon de la homa penado, k. la mirindaj sukcesoj de lia teknika laborado.

Mi bone komprenas, kial oni ankoraŭ laboras la teron nur per mano. Ja en tiuj malvastajoj malfacile estas uzi maŝinon. Ofte mi admiris la lertecon k. originalecon de la Japana kamparano. Ja iliaj plektaĵoj, k. iliaj kamp-aranĝoj montras la okulfrapajn ecojn de pacienco, zorgemeco, obstineco, de la landa kamparanoj. Cetere tiujn kvalitojn oni retrovas, kiam oni iomete zorge atentigas viajn urbojn.

La simplaj primitivaj trajtoj de la japana popolo, estas en la urbojigitaj al iliaj plej grandaj ecoj. Krome observante viajn urbojn, oni rimarkas la kuraĝecon, obstinecon, k. antaŭenemecon kiu karakterizas la Japanojn.

Anktivaj temploj, sanktejoj agrable montras al la vizitantoj la jam trairitan vojon, kaj samtempe la anktivan ĉarmecon de Japanlando.

Tokio k. Yokohama plaĉis al mi, ĉar tie mi rimarkis, ke rekonstruante la urbojn oni ordigis ilin laŭ modernaj postuloj. Malnovaj, malhigienaj domoj kiel en Francujo ne plu estas videblaj. La stratoj estas bone pavimitaj k. t. p.

Tamen mi opinias ke elektra drataro kun ĝia malgraciaj fosto, malbele k. danĝere eĉ ornamas la apudajn stratojn.

Ankaŭ mi opinias ke la stratoj, kiuj estas apud la ĉefa, estas tro mallargaj. Tramaro estas tre disvastigita en Japanlando. Tramveturilo estas tre rapida, komforta, oportuna pro la ofteco de la cirkulado.

La Imperia Palaco, en Tokio estas tre impona, kun ĝiaj dikaj muregoj, k. largaj fosoj. Al mi plaĉis la aranĝoj oportunejoj, artiklaro, konstruaĵo k. arkitektaĵo, de la plej modernaj ĉion-vendaj magazenegoj. Ĝentileco, akurateco de la Japana oficistaro en polico, magazenoj, tramoj, k.t.p. estus kopiindaj en la aliaj landoj. La postrestaĵoj de la tertremo, k. la muzeo

| | |
|---|------------------------------------|
| 云ふ事。sen-igi 無くす。instrumento 器具。 | ごろくべき傾向。pacienco 忍耐。kvalito 性質。 |
| ter-spaco。kultur-metodo 耕作法。oazo オアシス。 | antauen-emeco 先進性。ordigi 整頓す。 |
| irigacia kanaletoj 灌漑溝。arb-ar-oza 森林多き。 | moderna postulo 現代の要求。pavimi 舗道する。 |
| harmoniiĝi 調和する。teknika 技術的。 | elektra drat-aro 電線網。tram-aro 軌道網。 |
| originaleco 獨創性。okulfrapa eco お | disvastigita 擴まつてゐる。ofteco de |

dediĉita ol ĝi en Jokohama kortuŝis min. Ankaŭ ĝi lasas en mi la konsolan impreson de la kuraĝeco de la tiea loĝantaro. Belegaj ĝardenoj, sanktaj arbaroj, en kiuj mi havis ĝojon k. agrablon viziti, pruvis al mi, la artecinklinon de Japanoj. Ankaŭ ili montris la respekton de la loĝantaro por la bonaj tradicioj ne malebligante pro tio ilia antaŭenemeco, kiu diferencas tiun ĉi landon de la aliaj Aziaj popoloj.

Gastameco de Japanoj, estas ankaŭ trajto de ilia akceptemo.

Mi sincere bedaŭras ke la lingvaj baroj ankoraŭ disigas provizore tiun interesan popolon, de okcidentaj landoj. Same mi tre bedaŭras ke pro nekomprenebla skribmaniero Japan'ando ne estas pli konata eksterlande. Feliĉe venis ESPERANTO. Povu kompreni Japanan popolon, ke tiu mirinde nekomparebla ilo, estas des pli inda esti akceptita grandskale en via lando. Ja ĝi nur havas ĉiujn kvalitojn, por emancipi en fremdaj spiritoj tiun veran Japanan senton.

Koninda lando, povas esti konigita, nur per la plej bona rimedo; ĝi estas ESPERANTO.

Same kiel mi hodiaŭ havas la ĝojon publikigi miajn impresojn ESPERANTE, same ĉiuj Japanoj devas k. povas fari same, tio estas: konigisian landon al la tuta resto de la homaro. Sekve, ĉiuj lernu ESPERANTON, ĝin disvastigu kaj PRECIPE PRAKTIKU ĈIAJN SERVOJN: ĝis la bela sonĝo de l' homaro por eterna ben' efektiviĝos.

ペレル君よりの手紙

En Kobe la 5-an X. 30

Alte estimataj samideanoj

de Redakcio de "Revuo Orienta" kaj J. E. I.

Ĝus mi legas la 2-an parton de mia artikolo en la oktobra n-ro de R. O.

Mi esprimas per tiu letero la dankon pro la honoro, kiun vi faris al mi enpresis la artikolon. Samtempe mi ankaŭ dankegas al la direkcio de J. E. I. pro la varmaj rekomendaĵoj, kiujn sendis al ĉiuj renkontotaj de mi J. E. I. anoj. Antaŭ 2 aŭ 3 semajnoj, oni petis min skribi artikolon pri miaj impresoj en Japanujo, kiam mi estis en Nagoja. Tiam mi skribis per propra mano iun artikolon fuŝe, kaj pro tio, tuj ne sendis al vi. Poste mi mallerte transskribis ĝin maŝine (kvankam mi ne scipovas maŝinskribi).

L. Peraire.

la cirkulado 運轉の類發。impona 感服すべき。akurateco 几帳面。kopiinda 真似るべき。kortuŝi 感動する。konsola 慰める。art-ec-inklino 藝術的傾向。tradicio 口碑, 傳説。gast-ameco 接待好。lingvaj baroj 言語的障害。disigi 分割す。provizore 一時的に。

grandskale 大規模に。emancipi 解放す。

(此の稿了り)

〔ペレル君の繪はがき——京都エス普及會から學會へ多數寄贈されました。御希望の方は2錢切手封入申込まれたし。〕

譯語秘話

粟飯原 晋

57. Regino は皇帝

明治7年4月頃一英商人が横濱で税關規則に違反したといふ事件で、横濱税關長星亨と英國領事ロバートソンとの往復文書中、英語の Queen (*Esp. Regino*) を日本側で女王と譯した。この公文を見た英國公使パークス——彼は漢文を解した——は外務卿寺島宗則に會ひ、「この問題は、問題それ自身は些々たる事柄に過ぎぬけれども、東洋の外交に於ては一國の元首に對する敬稱は重大の關係あるもので、現に同様の問題から、貴國は征韓の議を唱へられた始末である。日本人が外國人を侮蔑する一原因は日本は帝國なるも、英國は王國に過ぎずとの誤れる觀念に基くと思ふ。若し地を易え、日本の官憲が女王と譯したと同じ筆法で、日本のミカドを吾々が男王とでも譯したならば、日本國民は如何に憤激するか察するに難くない。自今英國の元首は女王と譯さないで皇帝と譯するやうに願ひたい」と注文した。寺島外務卿は「日本では勤王なり尊王なり、王政復古なりの語で恰く用ひらるゝ通り、王稱必しも卑下の意味では御座らぬ。」と辯じたが、パークスは却々以て納得しない。

そこで寺島外務卿は星税關長に上京を命じパークスに對して女王の譯語の理由を説明せしめた。星は英國が Empire (*Esp. Imperio*) と云はないで、自ら Kingdom (*Esp. Reglando*) と稱することから説出し、英字彙に依り Queen と Empress (*Esp. Imperiestrino*) との異同を滔々と論じたので、パークスは七面倒さいふ顔付で、「宜しい。然らば問題の紛糾を避くるため、原英字を日本語に譯さないでその音の儘にクイーンと假名書きにすることにしては如何。」といふ折衷案を出した。

剛腹な星は冷笑しつゝ「それはお易いことです。但し日本語ではインはイヌに通じ、クイイヌとも聞えますが、それで宜しければ……」之を聞いたパークスは忽ち嚇怒し、「我が主君に對し驚き入つたる不敬の言を日本の當局官吏より承はるものかな。責任ある當局

者の斯かる一言は、場合によつては開戦の原因とならぬとも限らぬことを御承知ないのか。」と云ひつゝ、太い拳骨でテーブルの上を力強く敲いた。その拍子に卓上の紅茶茶碗はひっくり返つて床に落ち、粉微塵に碎けて了つた。

寺島外務卿は、星の冷嘲的答辯を兎に角失言として謝し、星に因果を含めて税關長の職を退かしめ、同7年7月25日の太政官達を以て

「締盟各國君主ノ稱號原語各種有之候處和公文ニハ原語ニ拘ハラズ總テ皇帝ト可稱定式ニ候條此旨可相心得事

但シ共和政治即チ米利堅佛蘭西西班牙瑞西秘魯等ノ如キハ大統領ト稱スベキ事」

といふ規則を公布して、凡そ君主國の元首はその帝たる王たるを問はず、一樣に皇帝と稱すべきことにして、此の事件は落着した。(「國際法外交雜誌」第二七卷第七號所載、信夫淳平博士「明治の外交史上パークスの地位」による)

58. Junulo の譯語

「……第一に想ひ起すことは、青年の二字のことであるが英語の youngman (*Esp. junulo*) を翻譯するのに、若年も餘りに直譯的であり少年、幼年では餘りに子供過ぎる。そこで種々協議の結果、唐詩選にある青雲の志を抱き云々の句から考へ出して青年の二字を取り、ヤングマンを青年と譯し、Youngmen's Association (*Esp. Junulara Asocio*) を青年會と命名したのである。今日に於ては何人も青年又は青年會といふ言葉を怪しむ者もなく、之を慣用して居るのであるが、これは私共が五十年前に色々苦心して命名したもので、實に今昔の感に堪えぬのである。」

これは東京靈南坂教會牧師小崎弘道氏が、去る1930年5月4日東京基督教青年會の創立滿五十年記念のためにせる講演の一節で、青年たるものゝ知らなければならぬ譯語苦心談である。

„LA TAGIŌ“ 新 譯

夜 明 け

小 野 田 幸 雄

(Por laŭte legi)

吾が友胸の琴を弾け
 調べ新たな音と共に
 歌は海山さざろかし
 眠れる者を呼び起せ
 夜明け夜明けよ光りは流る
 夜の眞闇は疾く逃げて行く

荊棘の道のへ廻(め)りや
 岸打つ波の脅し
 終ひには勝ちし喜びに
 平和の濱に帆走らん
 長の戦ひ苦難の後に
 緑の星の旗翻る

風が劔が来るとても
 吾等の腕は鐵の如
 焔も不意の裏切りも
 吾が望みをば壊ち得ず
 如何な力も引き抜き取れず
 心深くも根を張り榮ゆ

熱の櫓信の帆で走る
 祝はん君の造りもの
 果てまで君に忠誠な
 早き同志を壽がす
 此の世は變り月日は移る
 されど彼等の記憶は残る

うれし吾等の此の言葉
 み空の神の秘めものぞ
 家國民を愛すれば
 吾等の胸は燃え上る
 み祖(ま)に向ひ吾が血は赤し
 同(ひと)時(とき)に吾等は世界の兒なり

此の世の果てさ地の極み
 萬の胸の其の中に
 響く木霊ははや響く
 依りて地の兒は歌ふなり
 夜明け夜明けよ光り流る
 夜の眞闇は疾く逃げて行く

(Por kanti)

友よ胸の琴を弾け
 調べ新たな音を
 歌は山から海へさ
 皆をゆすり醒せ
 夜明け夜明け光り流る
 夜の闇は逃げて行く

廻り廻る荊棘道
 胸驚かす波
 終には勝ちし喜び
 目指す平和の濱
 長き戦ひ止みて後
 緑の星翻る

風も刀も何のその
 吾等の腕は鐵
 焔不意の裏切りも
 望みを壊ち得ず
 如何な力も抜き取れず
 心に根を張り榮ゆ

熱さ信もて帆走る
 祝はん吾が言葉
 果てまで君に盡せる
 祝へ前の一味
 移る此の世變る月日
 永(と)遠(の)に残る友が姿

吾がうれしき此の言葉
 天つみ空のもの
 愛する家と國民(こ)に
 吾等の胸は燃ゆ
 神に向ひ誠なり
 又吾等は世の兒なり

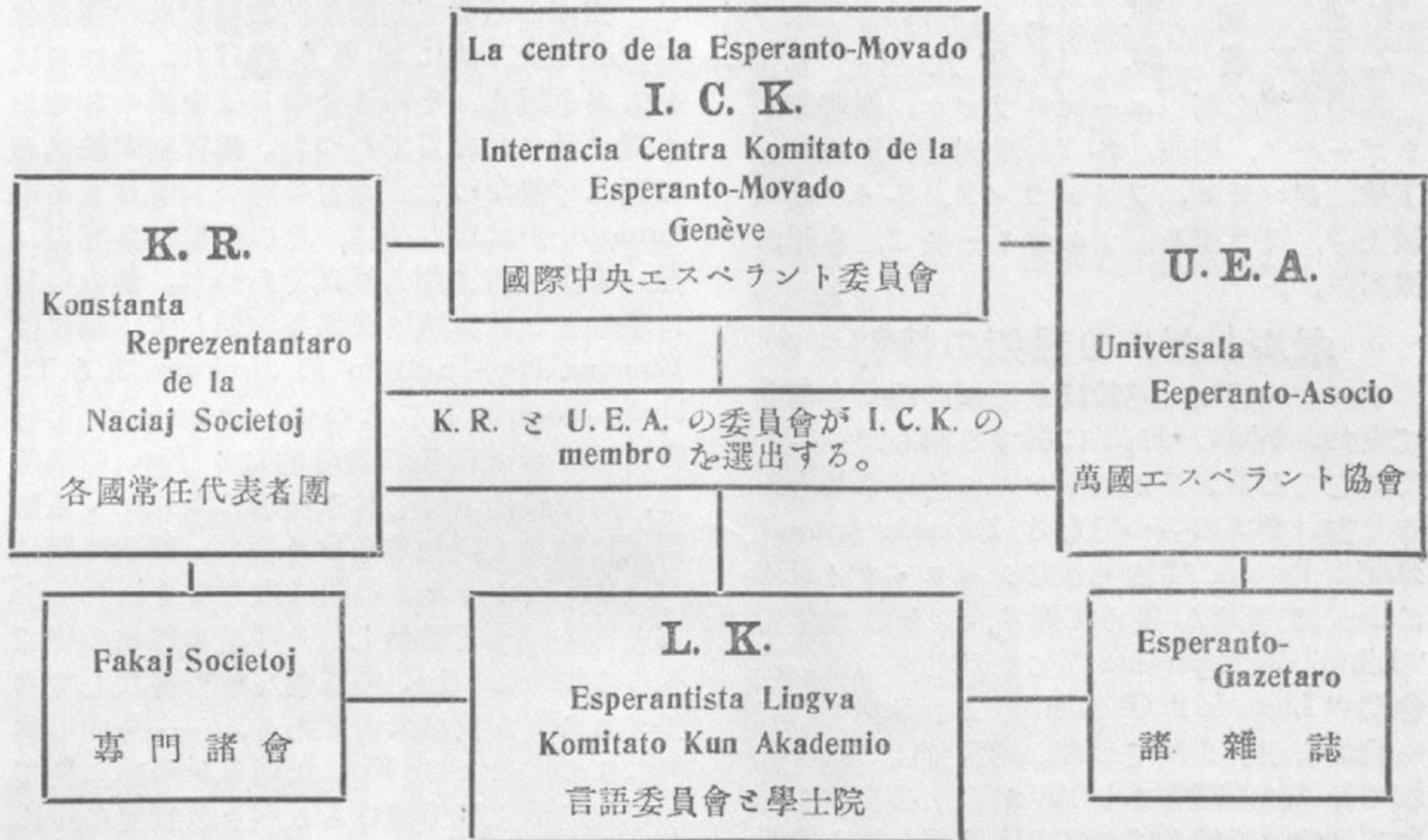
此の世の果て地の極み
 萬の胸の中
 早や木霊す木霊する
 されば地の兒の歌
 夜明け夜明け光り流る
 夜の闇は逃げて行く

海外報道

小此木貞次郎

現在世界エスペラント運動の組織

I. C. K. (Esp. 運動の指導中心) は世界の Esp-movado の組織に就いて次の如き明瞭な略圖を新らしく示した。



I. C. K. Prez. John Merchant (Sheffield)
Direktoro Rob. Kreuz. (Genève)

- 1) 世界中のすべての Societoj 及び個人的 Esp-istoj を連結せしめる。
- 2) 萬國大會並に夏季大學を開催する。
- 3) 必要に応じて専門及び他の會議を arangî する。
- 4) 國際 Esp. 運動を保持させ、指導し、創始し、鼓吹し、援助し、連絡せしめ、管理し、代表する。

L. K. Esp. の基礎原則を保存し、正當な發達を管理する。L. K. の報告は萬國大會に於てなされる。

K. R. 各國は各々自國の運動を指導する爲めに nacia organizo を持つてゐる。各國の Nacia Societo は K. R. を形成するために一人の代表者を選出し、毎年會員數に應じて賦課金を I. C. K. に出して I. C. K. の經費としてゐる。その代表者はその國の

organizo の内外の nacia movado を代表するものでなければならぬ。

U. E. A. 獨立の協會であつて、エス語の使用を普及し、各種の關係を容易ならしめ、奉仕事業を營み、團結の氣を發展せしめ、他の國民に對する了解と尊敬とを助長せしめる。

Fakaj Societoj. 専門家達の獨立の團體にて I. C. K. と常時連絡を保つ。

Esperanto-Gazetaro. 獨立の企畫であつて I. C. K. と常時連絡を保つ。

★日本では「財團法人日本エスペラント學會」が我國唯一の Nacia Societo として之に参加しており、K. R. の代表者として進藤靜太郎氏を選出してゐる。L. K. には藤澤親雄氏が選まれてゐる。

★此の organizo は 1926 年の J. E. I. の年鑑に既に記されてあるが、多少變更されたところもあり、こゝに新に I. C. K. が發表した skizo と共に掲載する。

萬國大會參加者

Oxford に於ける第 22 回大會は終つて、申込の取消や其他の變更も明になり、正確な結果が吾々の前に示された。即ち參加國 29 ヶ國 1,211 人。國別にすると・

| | | | |
|----------------|------|------------|-----|
| 1. 英國 | 623. | 8. 瑞典 | 23. |
| 2. 獨逸 | 142. | 9. ハンガリ | 18. |
| 3. スコツト ランド | 106. | 10. チェツコ | 13. |
| 4. ネーデル ランド | 75. | 11. 米 國 | 11. |
| 5. 佛 國 | 48. | 12. 日 本 | 9. |
| 6. 波 蘭 | 36. | 13. アイルランド | 9. |
| 7. 白 耳 義 | 23. | 14. 伊 太 利 | 8. |

其他埃太利、ユーゴスラビヤ、西班牙、ウエールス、瑞西、各 7、濠洲 6、諾威 5、丁抹、ダンチヒ、フィンランド、各 4。Saar 領土 3、ブラデル、ブルガリー各 2、氷州、露西亞、各 1。

ポルトガルの最近の情勢

リスボン Esp. 運動は最近頓に活氣を呈して來た。新聞の E.p. に對する關心が一般に反影してゐる。又ポルトガルに於ける最も大きな古い書店の一つである Parceria Antonio Maria Pereira では大きなショウ・ウィンドに Esp. 出版物を集めて飾り、大きな文字で “Libroj de Esperanto” と公示してゐる。協會は “Ligo de l' Okcidentaj Esp-istoj” で、一般から注目されてゐる。講習會は二組に分れて行はれ、兩方とも 100 名以上の出席者がある。やがて婦人ばかりの講習會を開くであらう。去る 8 月 31 日田舎に宣傳遠足をなし、大いに Esp. ideo を祝し合つた。參加者 200 名以上。ホテルに於ても數名の oficisto をエスペランチスト化しつつある。UEA. の delegitoj は都會、地方新聞を利用して、本國同志の Uni. Asocio に入會を薦めてゐる。

Mez-Saksa に於ける Konferenco

La 8-a Konferenco de Mez-Saksa Esp-istaro は 9 月 8 日、Frenkenberg に開催さる。中部サクソニヤ國の 10 地方からの代表が之に加つた。その席上で Neu-Robschütz から來た Harder 氏は瑞典國中を 12 日間に自働自轉車で四千軒旅行した話をした。彼は瑞典國內での會話は例外なしに Esp. を用ひた。彼は全く豫想外のところで同志と遭遇したことを語つた。ある大森林の中でオートバイの破損で困つてゐる時 Esp. の出来る軍人がやつて來て修繕を手助けしてくれ、又疾走中綠星旗を見、又ある時には村の Kafejo で女中さんか

ら Esp. で話しかけられた。最後に彼は曰く。“Esperanto bone funkcias.” (Esp. は實によく役立つた。)

デンマークの綠星運動

Odense はお伽噺の作者 Andersen の出生地として人の知るところであるが、其の町で 7 月 14 日—25 日、12 日間の Esp. 講習が獨り Centra Dana Esp-ista Ligo の主催で行はれた。丁抹に於ける Ĉe-metodo に依つての最初の短期講習會であつた。先づ大宣傳が行はれ、幾多の重要な新聞専門雜誌が此の講習會に就いて大々的に記事を掲げた。參加者は 450 名を越え、その 4 分の 3 は全國の各地から馳せ參じた教員であつた。講習期間缺席者は殆んど無かつた。講習の終つた翌日 8 名の lernintoj が試験を受け、その結果は良好で、殊に筆記試験は頗る優良であつた。最後の日に參加した教師連は決議を作製して、「講習は Rumana Esp.-Instituto の direktoro なる Tiberio Morariu 氏によつて、Ĉe-metodo で行はれた。吾々は眞に論理的なる Esp. の構造と、熟練せる了解し易き指導によりかゝる短期間に輝かしい効果を收め得た。授業時間は Morariu 氏と吾々との間に取り交された gaja な會話の連續で終始し、その結果將來の完成への確固たる Esp. の基礎を教科書なしで獲得することが出来たのである。……今回の講習によつて吾々は Esp. が何等かの形に於て小學校の最上級で授けらるべき教授案の中に取り入れられることを確信する。」と。最後に Centra Dana Esp. Ligo の Prez. である Alfred Christensen 氏の感想を加へる。「今回の講習は實に驚嘆に値する。勿論私は此の Instru-Metodo によれば充分な効果は齎されることは知つてゐたが、斯くも輝しきものは豫期しなかつた。……授業中屢々私は Morariu 氏が我々丁抹人にまつて難解な、例へば所有格、目的格の形式や、相關詞についての問題に就いて實に見事な説明を與へて呉れるので、拍手喝采を禁じ得なかつた。

1931 年の萬國大會準備

大會は既報の通り成功裡に幕を閉じ、本年の Esp. 界最大行事は終つた。さその疲れを休める暇もなく、9 月、ベルリン Esp-Gruparo は第 23 回大會 (波蘭 Krakovo) 開催前に Antaŭ kongreso を三日間ベルリンに於て行ふことを決議した。——此の他最早既に主なる準備活動は次回の大會の大成功を収めんため開始されてゐる。

道 報 地 内

Scherer 氏 來 る

— 東京・横濱・静岡・盛岡・仙臺・新潟・金澤へと —

東京・横濱・平塚・静岡

I. C. K. の speciala delegito として世界中に宣傳講演をして廻らふといふ Joseph R. Scherer 氏はその秘書 Slinger 氏と共に10月4日その瀟洒たる姿を巨船龍田丸船上に現した。横濱東京の同志は彼を迎へ波止場の食堂に拉して先づ劈頭の Bonvenon! の辭を浴びせかけた。氏の口をついて出る奇麗な發音、明快なる言葉、流石は speciala delegito であるさ肯かしめて一同安心と共にエス語なればこそ嬉ぶこそ限りなし。これより東京に向ひ宿舎 YMCA に旅装を解き、最近エスベラント部を新設した東京堂を訪れ、銀座の Argenta Kunsido に出席した。そしてその夜は小坂氏の日本食の晩餐會。

明るる5日は岡本、大橋夫妻伊藤、城戸崎氏と共に日光へ ekskurso。東照宮、華嚴瀧、中禪寺湖、總て驚嘆の的、カメラの的であつた。

6日は黒板博士の午餐會があり、午後は東京朝日新聞社、東京日日新聞社を訪れ、夕は東京劇場の一等席で日本の芝居に驚異の目を見つけた。

7日平塚農學校へ。我國に來て初めての講演であつたが、残念なことはランプの故障でうまくいかなかつた。平塚の同志と暫らく懇談して直に横濱に向つた。

横濱にての講演會は横濱貿易新報社後援でその講堂に開かれた。數百人の參會者。清水勝雄氏のエスベラントの話の後 Scherer 氏は直に「加州事情紹介」「映畫の殿堂ハリウッド」の幻燈を寫した。通譯は福喜多氏の名譯。終つて遙々來會した横須賀平塚東京の同志と共に記念撮影をなした。

8日、夕は JOAK のラヂオの波を通じて二十萬の聽者にエスベラントの美しさを傳へ

た通譯は清見陸郎氏。それより學會の例會に望み色々面白い氏の經驗談を話してくれた。

9日早朝川崎の電燈會社でランプを求め横濱の gesamideanoj と amikiği し、特急富士にて静岡に向つた。静岡では高橋邦太郎氏の通譯にて幻燈をやる。

明るる10日は久能山に登り憧がれの富士山をカメラに収め、藤澤まで出迎へた小坂氏と共に鎌倉に遊ぶ。

午後六時よりは東京日々後援にて講演會。會場は同社の講堂であつた。定刻まで既に同

志諸君や neesperantistoj で立錫の餘地なく既に6時前に満員入場お断りの札を貼るに至つた程であつた。大石氏の紹介に次ぎ Scherer 氏は簡單なる挨拶をなして直に幻燈を映寫その説明をなした。之が通譯に當られたのは栗飯原晋氏。先づ例の如く「南加州事情紹介」後に「ハリウッド」を寫した。始めてみるハリウツ



横濱港に於けるシェラー氏（右より四人目）スリンガー氏（五人目）

ドの街、王城の如きスターの邸宅、スタジオ、トーキー撮影に目は遊び、ハキハキした氏の解り易い説明に耳は喜んだ。最後に鐵道省提供のエス語字幕入美麗なる實寫「四季の日本」を觀く散會。ランプの故障もなく意外の盛況に一同安堵の胸をなで下した。

12日午後六時より東京エスベラント俱樂部の歡迎晩餐會。この會は Scherer, Slinger 氏の歡迎會であると共に又今度 Oxford で開かれた萬國エスベラント大會に出席された石黒修氏の歸朝歡迎、中華民國鎮江の同志符惱武氏の歡迎會でもあつた。栗飯原氏の司會により上記各氏の挨拶があり、東京側より丘、西博士、内田氏の挨拶があり最後に小坂氏滯米中の感想を語り9時閉會した。

13日は希望社と理化學研究所にて亦々講演希望社では下村芳司氏の通譯で「死の谷」を、

理研では岡本好次氏の通譯で「山の國スイス」を寫した。かくて13日午後10時半多くの同志諸君に見送られ帝都を後に一路盛岡へこ、上野驛を Bonanyojagon! の辭に送られて出發した。(M. Kastelo 記)

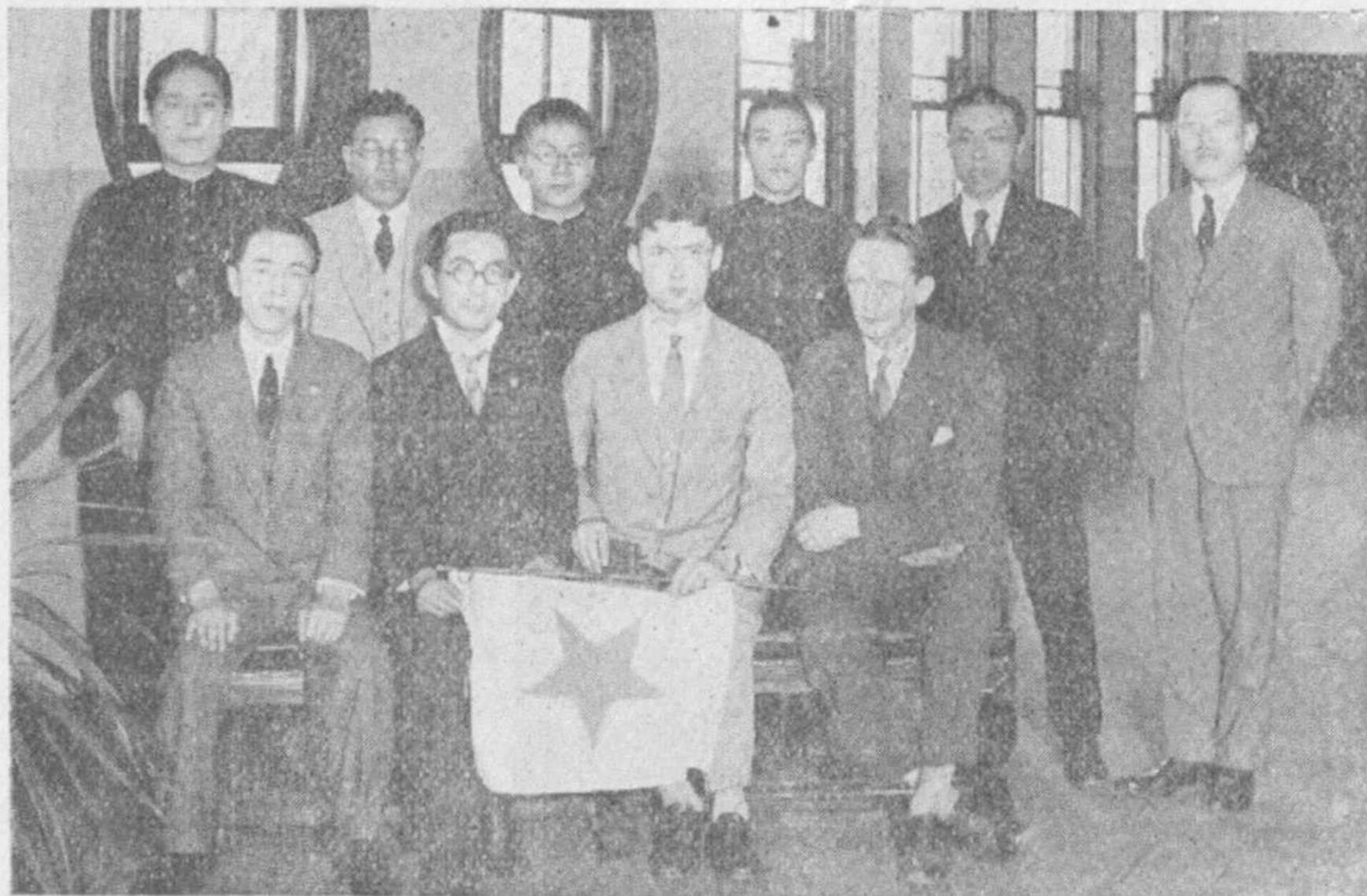
仙臺

17日午後2時 Scherer 氏來仙。直ちに市長縣知事大學總長等を訪れて宣傳に力む。知事學務部長は既にエス語を習つた事があり好意をよせらる。夜は政岡家にエスペランティストの歓迎會を開き Los Angeles の運動を聴き吾會でも再組織の動議がいつ。夜は茅場氏の宅に。18日折柄宮城女學

日朝10時新潟へ發つ。綠旗を擁して送る。熱心なるローマヂスト菊澤松井氏はRの東京での大會の爲め郡山まで同道。Dankon! S-ro Scherer! 政岡家の S-ro Scherer の parolado に刺戟せられ再組織の機運起り彼の推選にて prezidanto S-ro Kikuzawa, Vic-prezidanto S-ro Kuwahara さきまる各 komitato をつくり面目一新の豫定。(桑原氏報)

新潟

10月17日午後7時10分着、同志15名出迎へ直ちに一等旅館篠田旅館に投宿。18日は渡邊氏宅に移り早朝より高校にて幻燈機械の試寫。新潟毎日、時事、新潟新



東京堂にて

左より前列——大橋、小坂、シエレー、スリンガー
後列——城戸崎、三石、平澤、小野田

校の運動會なれば黒澤氏の勤めにて同校生徒に菊澤氏の通譯で話をした。次いで松島見物同勢8人、愉快的時をもつた。午後4時半人類同胞會仙臺エスペラント聯盟市教育會の主催にて歓迎會。席上ムツソリーニに贈る前の日本エス大會映畫になほ市内の風景を加へる爲の寄附の話があつた。午後9時よりJOHKより30分菊澤氏の通譯にて放送。ロスアンセルスの砂漠及び輸水運河に關する話。

夜商工會議所にて講演會開催。聴衆約400名。シエレル氏ロスアンセルスハリウッドカリホルニヤについて2時間ばかり語る。尙東北帝大エス會長東北帝大總長井上仁吉氏も挨拶された。その夜は菊澤氏の宅に。かくて19

聞社の三社を訪問。會見の記事及び寫眞は直ちに夕刊に出た。午後2時より高校講堂にて講演會——開會の辭：富田高校教授。エスペラントについて：眞崎醫大教授。映畫の殿堂ハリウッド：シエレル(久保義郎譯)。閉會の辭：榊學士——それより記念撮影の後イタリヤ軒にて晚餐會、24名出席。Scherer 氏エス會の Organizado について話す。この日十里距つた加茂町同志5名來湯。新潟縣下エス大會の觀あり。19日午前9時金澤へ向け出發。同志醫大眼科和田嬢は日本の人形を贈る。シエレル氏曰く「貴女はハリウッドに來れば直ぐに日本の人形様として可愛がられ一躍スターになります」と。(久保氏報)

——新聞雜誌とエス語——

★門司新報 9月30日、エスペラント世界大會經過として石黒代表歸朝談。

★秋南新報 10月9日、新刊紹介にエスペラント横手の紹介。

★大牟田毎日新聞 9月26日より16回、人類共同生活の鍵、國際補助語エスペラント、平

田鬼丸。

★東京日々 9月29日10月5日・10日、シエレル氏の記事。

★江州日々 9月21日、ベレル氏の記事。

★讀賣新聞 10月8日、シエレル氏の記事。

★少女俱樂部 11月號「大評判の日本娘」後藤靜香。

東京

★Argenta Kunsido 第百回記念會
合——を明治製菓樓上にて10月18

日開く。會するもの30數名。特に横濱より6名の同志參加。自己紹介や歌の合唱や餘興に賑ひ後各に disdonaci された fondinto 大橋畫伯の畫を手にして散じたのは9時半。

★東京學生聯盟例會——10月17日多摩川への散策を企てる。午後一時澁谷驛集合、會する者西會長を初め來賓岡本氏、帝大醫、理、文各學部並に東京藥專の同志多數。尙聯盟振興策に付き再議せし結果常任委員會（各加盟校より送出せる代表者を以つて組織す）を新に設

立することに決した。尙之に對する具體案は改めて各校に通知す。

★東京美術學校エスペラント部——世界に日本美術の紹介を目的として今度繪端書二種撰定、G. T. Sun Co. より發刊。第一回、狩野元信（山水圖）、室町時代。岩佐又兵衛（浮世繪人物圖）、徳川時代。當部員にのみ頒布した。今後古代より今代に至る傑作繪畫50、彫刻30、建築10、工藝10、の割にて續刊。發刊に共に當部報“Kroniko”に解説。完了と共に單行本にしたい豫定。若し御希望でしたら學會に御依頼致しましたから實費送料共一組20錢で御頒ち致します。



9月28日全生エスペラントグループに於ける「悲慘のどん底」出版祝賀會の光景

京都

9月20日 Peraire 氏着京。新聞社訪問。21日生祥寺にて歡迎會。氏の熱辯を傾聴して大いに得るところあり。10月12日は京都大津の同志20餘名と坂本比叡山へ遠足す。18日は中野忠一郎氏の葬儀であつたので京都エス會の名において花輪を捧げ、八木日出雄氏弔辭を朗讀。故人生前の希望により同志一同靈前にて Espero 合唱。我々の

運動漸く隆盛ならんとするに當りこの先驅者を失ふは痛恨に堪へず。（近藤氏報）

★京都學生エスペランティスト聯盟——委員會を9月2日開き次を議決す。委員長：京大吉田金三郎氏。會計係：三高青山。聯絡係：同志社一木。新委員の決定。會費の件。シエレル氏講演のこゝ。辯論大會の件。（三高エス部報）

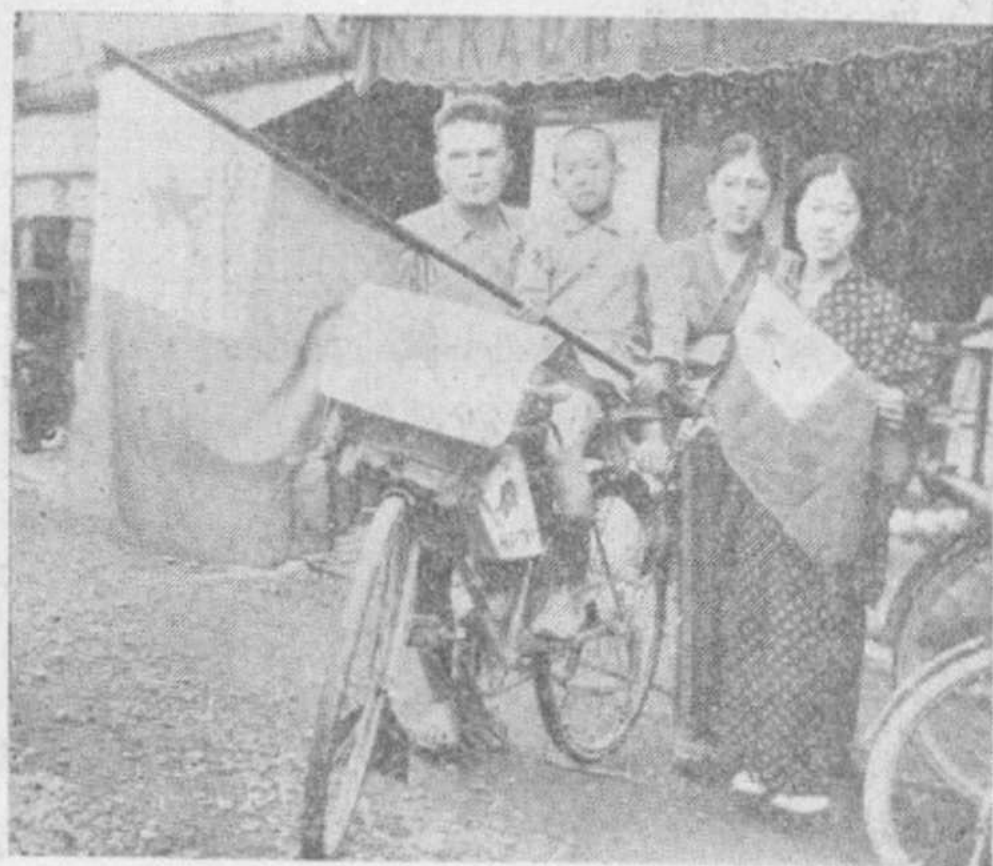


La 18-a Japana Esperanta Kunsido en Kanagaŭa

大津

9月18日岐阜より來津のベレル氏を迎へ各新聞社市役所中大路氏(昨夏來病床にあつた氏を訪れしベレル氏は色々氏を慰め治癒法を説き氏もまた誕生への努力を約された劇的シーンであつた)を訪問。同夜魚善食堂にて歓迎會。植村氏宅に泊る。9月19日は大津エス聯盟(大津エス會、大津エス普及會、大津商業エスペラント會が共同事業をなす場合にはこの名を用ひることにした)主催江州日日新聞社後援にて大津西小學校にて次の様に講演會を開いた。聴衆400。

開會の辭：江州日日鎌田記者。國際は何を語るか：大津 北垣雅樂一。エスペラントの暖さ：京都 中原脩司。獨唱：京都 廣瀬武夫エスペラント行脚談：ベレル。通譯：京都 伊藤榮藏。後エスペラント講習會を開く。



大津に於けるベレル君

姫路

ベレル君神戸より10月9日來姫。立石藤谷氏に迎へられ同夜は街頭に出て寫眞入の繪葉書を賣つた。思つたよりよく賣れた。珍しいので宣傳が大分きいた。幼い子が買ひに來ると握手をし、軍人が通れば「軍人は無料だ」といつて與へ、藝者を見ては「何といふ美しい女だ」と感心した。自轉車の修繕に時間をとり、11日朝寒くならぬ

内に日本を去りたいといつて引止めるのもきかず郊外まで同道した同志に見送られて一路岡山に向つた。(手柄エス學苑)

福島

9月5日新設の福島希望館にて第一回の會合を開いた。會するもの20餘名。先輩阿部氏も出席君が代、後藤先生のレコードをき、エス語研究の今後の方針等相談す。(島崎氏報)

瀬戸

少年エスペラント會生る 13—15歳の少年15名によつて組織松本重一氏指導の下に毎日1時間宛講習。通信は權現寺町松本宛。

北九州

エスペランチスターロ——通常の例會に兼ね先没同志片山爲弘君の追悼會を市内八幡町1丁目柔原與二郎氏宅にて開催。熱烈なエスペラント運動家として遂には一命まで投げ出した彼の追憶談に静寂な秋の夜を更かし、各自鼓舞し合つて22時半閉會。(寺崎氏報)

門司

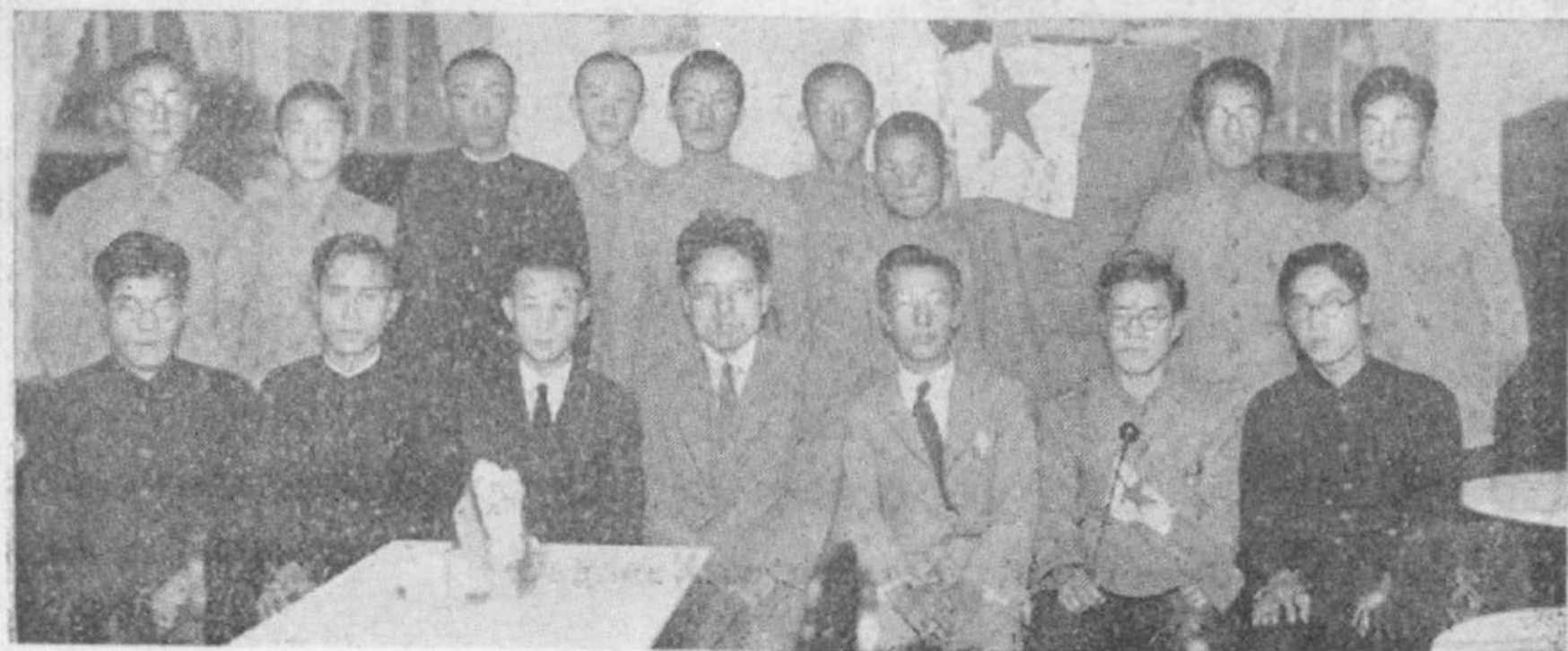
片山爲弘の計 一昨年以來門司エス會の爲献身的努力をされた片山氏は昨年春病を得て養生されてゐたがその甲斐なく八月三十日遂に逝去された。直接原因は確に講習其他で無理をされた爲だが他方理解ない人達の壓迫も因した事は明かだ、こゝに同君を惜む共に我等は氏を慰める爲更に高く大きく動かねばならぬ。(K. T.)

八幡

海軍監督官補助として一ヶ年の豫定で八幡に來られた、横須賀の松葉菊延氏の歓迎會を8月23日午後7時より八幡市通り町二丁目八幡エス會事務所にて開催寺崎(門司)、田中(小倉)、林、中西(戸畑)、大森、清原、岩崎、武田、白石(八幡)の諸氏出席

福岡

9月20日午後7時より明治製菓樓上にて福岡高等學校エスペラント會發會式を舉行。出席者は福高教授赤野法香氏俱樂部より江口廉氏、外17名出席。盛會裡に10時閉會。今後赤野教授室にて「サロメ」を輪講する。



福高エス會
發會式

前列向つて右より三人目江口廉氏次は赤野教授

★ 個人消息 ★

京都の同志中野忠一郎氏の訃

— 我國に於ける Zamenhof 博士として仰がれし —

中野忠一郎氏(終身維持員)の逝去は京都のみならず廣く Esp-ista mondo の一大損失であつて、この先驅者多年の勞苦が酬いられること未だ必らずしも多くないのに、この悲報に接して實に痛惜に堪へない。中野氏が Esp. の學習を始められたのはかの記念すべきガントレット氏の講義録(明治39年岡山發行)

によつてであつて、爾來終始一貫 Esp. の爲に盡された功勞ははかり知ることが出来ないのである。自ら Esp. の普及宣傳を以て天職となし、Esp. の爲には寧日なき感があつたが、その圓滿な人格、年と共に加はる熱烈な意氣は我々の等しく敬服した所であり、又 profesio に於ても、mieno に於ても Zamenhof その儘で、恰も眼前に nia Majstro を見るの思があつた。あらゆる機會に各地の同志と交驛せられたから kara memoro*



胸の上に Fundamento de Esp. を置いてほしい、そして、Esp. の歌を歌つて貰つたらこれ以上の幸福はない」とは豫ての希望であつた、がその日がかくも早く來ようとは誰が豫期したであらうか。葬送當日は故人と多年の親交ある八木日出雄氏が弔辭を朗讀せられ、會葬せる同志が靈前に Espero を合唱したが哀音切々として胸に迫つた。氏は刀圭界に重きをなし平常甚多忙で Esp. に専念する時間の少いのを嘆ぜられたが60歳以後は Esp. に没頭する希望を有せられ、又、來るべき kongreso に我京都に多數の同志を迎へて、相語ることを楽しみにしてをられたのであつたが、天この人に壽をかさなかつたのは惜しみて尚餘あるところで、彼を思ひ此を偲んで感慨無量である。茲に永眠に臨んで深甚なる弔意を表す次第である。

(近藤國臣記)

足助素一氏の訃

本會終身維持員書肆叢文閣主人足助素一氏、十月二十九日東京帝大大學病院に於て癌の爲め逝去された。氏は人も知る如く札幌農學校時代から故有島武郎氏の親友で、その著書を一手に出版してゐたが、有島氏死去後悶着が起るに面倒さばかりにすべての版權を叩き返してしまつたと云ふ氣慨に富んだ變り者。秋田、小坂の模範エス獨習。松崎の愛の人ザメンホフを出版し大正十四年本會基本金に寄附を申出られ終身維持員として入會、更に昨年は「愛の人ザメンホフ」の版權を紙型諸共本會へ寄附せられる等、我が學會の同情者として終始せられた。

茲に深く追悼の意を表する。

★松本清彦氏——慶大にあつて學生聯盟に色々盡力されてゐた氏は此春御卒業、安田貯蓄銀行に御就職されたが、去る十日久しく婚約中の馬場ゆき子嬢と東京會館にて華燭の典を擧げらる。Revuo 紙上から松本清彦の名は失せるが今後は馬場清彦として、新婚の意氣を以て紙上を賑すことであらう。

★大橋介二郎氏の渡支——此度百回目の會合を開いた Argenta Kunsido の創立者、學會評議員大橋介二郎氏は職掌柄兼て支那漫遊の御志があつたが、この度 Scherer 氏の渡支を機會に氏と同行して上海に至り、約二ヶ月の豫定を以て揚子江を遡り畫囊を肥すこととなつた。Bonvojaĝon!

全國エスペラント會一覽(9)

累計 105

| | | |
|---|----------------------|------|
| 奈良エス會 | 奈良市西御門町 | 宮武正道 |
| Internacia Parko Nara に訪れる外人はその時、氏名等御通知下さい、bonvenigo, gvido をします。 | | |
| 全國エスペランティスト中若し來寧の際は必ず當會を御訪問下さい。 | | |
| 大阪無産エス會 (O.P.E.A.) | 大阪浪速鹽草町 1146 西川方 | 重松清美 |
| 地區、職場に根を持ち ESP. 世界主義宣傳普及に力める労働者の grupo. 毎週月火金講習を開いてゐる。 | | |
| 明善校エス會 | 福岡縣久留米市中學明善校内 | 平田鬼丸 |
| 東高エス會 | 東京府下中野雜色東京高等學校内 | 宮田幸一 |
| 神都エス會(三重縣山田) | (例會を毎月第二土曜夕 7→9 時まで) | 内田眞守 |

【變更】 在來小倉エスペラント會(中野氏宅)は中野氏の都合により
小倉市山越町 田中國雄方に變更。

最近エスペラント講習會一覽表

| 開催エス會 | 種類 | 期 日 | 時 間 | 用 書 | 受講者 | 講 師 |
|-------------|----|--------------|--------|----------|-----|----------|
| 久留米明善校 | 初 | 7.24→9.6 | 毎日1時間 | 初等讀本 | 5 | 平田鬼丸 |
| 神戸消費組合 | " | 8月中 月水金 | — | " | 11 | 大屋安雄 |
| 灘中學校 | " | " | — | " | 9 | 安田龍夫 |
| 蘆屋組合教會 | " | " | — | " | 12 | 前田健一 |
| 八幡エス會 | " | 9.1→月水金 | 2 時間 | 講習用書 | 15 | 松 葉 |
| 三重縣一志郡中原村 | " | 7.20→30 | — | — | 30 | 岡田源平 |
| 三重縣久居町文武館 | " | 8.20→30 | — | — | 20 | 林,喜多川,工藤 |
| 札幌希望社エス會 | " | 7.4→9.5金 | 2 時間 | 講習用書 | 20 | 矢戸,鶴近 |
| 京都市聯合青年會後援 | " | 7.15→2週間 | — | — | 60 | 杉本武夫 |
| 朝鮮普及會(春川にて) | " | 8.11→15 | — | — | 20 | 山本素光 |
| 弘前エス會 | " | 8.21→27 | 2 時間 | 講習用書 | 21 | 谷山弘藏 |
| 神戸エス會 | " | 7.29→8.30週3組 | 2 時間 | 初等讀本 | 38 | 安田,前田,大屋 |
| " | 中 | 9.1→毎週水金 | — | 中等讀本 | 30 | " |
| " | 高 | 大正15年來水曜 | — | Marta 其他 | 不定 | 輪 講 |
| 三重縣山田 | 初 | 8.24→30 | 2 時間 | — | 30 | 南 晶 世 |
| 希望社三重縣聯盟 | 中 | " | — | — | 5 | " |
| 東京中央電話局同好會 | 初 | 8月中 水土 | 2 時間 | — | 20 | 小野田幸雄 |
| 學會横濱支部富士紡 | " | 8月→3ヶ月週2回 | — | 初等讀本 | 50 | 鈴木秀一 |
| 戸部裁縫女學校 | " | 6月→3ヶ月週2回 | — | " | 50 | 飯田龜代士 |
| 外國語學校 | " | 8.1→10毎夕 | — | 講習用書 | 10 | 福志多 脩 |
| 東高エス會 | " | 9.18→月木 | 1 時間 | 短講書 | 10 | 高橋孝吉 |
| " | " | " | " | " | 7 | 木庭二郎 |
| " | 中 | 9.22→火 | 0.5 時間 | 骸骨の舞跳 | 10 | 高橋孝吉 |

備考 神戸エスペラント協會の集會場は熊内橋通一丁目電停前 神戸消費組合支部樓上である。

“en kompanio” に就いて

„Esperantologio“ N-ro 1, Apr. 1930 及び „愛あるところ神あり“ p. 125 に於て川崎氏は en kompanio なる frazo が „仲間といつしよに；仲間“ (en compagnie; in company with) の意に用ひられたことを擧げて問題とされ、殊に „Esp-tologio“ に於ては、斯かる用法は „英語なんかのいわゆるイデオロギアをさり入れることになる、絶対に排斥すべきである“ として、研究のためひろく類例をもとめて居られます。以下それに就き：—

やはり S-ino M. Sidlovskaja によるエス譯 „Princo Serebrjanij“ p. 9 に同じ用例があります。„Ni iras la saman vojon, kaj en kompanio oni pli gaje vojaĝas,…” 新刊 SAT の „Plena Vortaro“ では Kompanio の説明第三項として „3 (P.M. Malkonsilinda estas tia uzo.)=Akompanado 1: ŝi iris kun sia malgranda infano en kompanio de du ĉamĉasis-toj (Z); en kompanio eĉ morto faciligas (Z)” とあります。この二例が Zamenhof のどの著書にあるのか同志の御教示を乞ひます。なほ同書は kompaniulo を akompananto と解してゐます。それから kompanio 一字の新しい(?) 用例としては „En okcidento nenio nova“ p. 10 以下所々で compagnie „Troupe d'infanterie, commandée par un capitaine (Larousse); company“ part of BATTALION commanded by captain (P.O.D.) 即ち sub-bataliono の意に用ひられてゐるのを見受けました。終りに、岡本、川崎兩氏の提唱による Esperantologio 研究が Esp. の實用化と相並んで同志の間にいよいよ pli vigla ならむことを切望します。(河合龍彦)

Esp-isto の考慮を促す

ブルジョアと稱する有産階級は、多年の克苦精勵によりて、産を起し唯り自己の爲のみならず、多くの無産階級の人に生業を與へ、生計の資を供給するものにして、若し頻繁に起る勞働階級の苦情を彼らが煩はしく思ひ、悉く廢業して無爲閑散の人となるに至らば、人類の最多數を占むる無産階級の糊口は、唐突に干揚るであらう。

凡そ人類に賢愚不肖の差あるは、自然の理にして、何人も免れ能はざる處である。その原因としては、或は之を遠く祖先の血統に發し、或は父母が病中衰弱の時に、或は泥酔の時に、孕まれて生るゝ子は不幸にも、その結果を享けて、不肖の者となり、成長の後社會の落伍者となるは、醫學の證明を俟たずして

瞭かである。それらの人々が、その然らざる健全なる人々と、同一に産を別たるゝものとするれば、誰かまた額に汗して、粒々辛苦の勞を敢てする者があらう。而して有爲有能の人が、その活動を中止するより、國家の疲弊を來すことは、明かな事實である。

勿論エスペラント界に於ても此の傾向は多分に盛られてゐるのは、否み得ない。ブルジョアに一考を要求する前に、今一度無産者なる者も熟考が必要であらう。つまり同じものを目指して進んで居る我々間に時をすると、反目的な所爲が醸され易い爲、時によつては此の普及上に支障を來すことがある。此の反目こそ我々の最も忌むべき行爲であつて、速に之を撤回して、此の語の眞の使命を果さすべく努力したい。此の語を國際語にさ叫ぶ前にあたつて我々は、此の語により以上の國際性と實際的價值を具備さしたなら、明日の大衆は、否應なしに此の語を國際語として受理するであらう。(我獨尊)

★エスペラント連動もまだ或意味から云つて幼稚な階段にあるとみえて、文法の一通りも嚙ればもう相當幅が利くのですが——それもなるほど悪い事ばかりではないのですが、やはり弊害の方が多い様です。

第一その位ではエスペラントに對する理解がまだ十分とは申されぬ。従つて人に宣傳する場合も、まして教へる場合は、やはり何處かに抜けた所があり、教へる方も教へられる方も不満足な結果に終るのです。その中にふまエスペラントについて何か疑問でも抱く様になり、そのまゝ捨てゝ顧なくなる様にでもなれば周圍の neesperantistoj に對しても悪い影響を及ぼすのです。

私達はいろんな條件によつてエスペラントの究研を阻まれてゐます。晝の間にそがしい職業をもつてゐて、夜はほとんど眠るためにのみ家へ歸ると云ふ様な方もありませうし、健康上の理由で十分に時間を割く事の出來ぬ方もありませう。私達はその人がエスペラントにおいて速成せぬからと云つて馬鹿にしたり、責めたりする氣持は少しもありません。然し乍ら私達は勉強においてまだまだ足りない所があるに關らず、無暗に活動のために時間と勞力を割くのはいかゞかと考へます。

(風間氏稿より)

★來年度の本誌表紙の圖案を募集します。印刷は二色刷まで、實物大、草案にても結構、何卒 R.O 誌の爲に振つて傑作を御送り下さい。

——(329 頁より續く)——

Kaj tiam li ree vidis la nekonatan vizaĝon, kiu kunsentane rigardis lin kaj poste ripetis en lian orelon: „Via patrino estas mortinta.“ Kaj aŭdante tiun voĉon li subite ektimis kaj vekigis kaj revis plu kun nefermitaj okuloj kaj rigardis la neŝanĝigintan horizonton.

するさまた例の見知らぬ顔があらはれて憐れむやうな様子でちつと彼を見詰めながら、お前のお母さんは死んでしまつたよと耳許で繰返した。此の聲にびつくりして目を覺ましてまた、開ききれぬ眼でぼんやりと何の變化もない水平線をながめた。

——(325 頁より續く)——

その次に「世界語國語對譯字書」をのせてあるのであつて、之は O'Connor の第五部の II. Esp.-English を大抵繼承してゐるが、その譯に關しては可成り正確を期した旨、本書冒頭の「例言」に於て記してゐる。即ち「竊に自ら信ずる所ありて、斷乎として新に譯語を下したるも少からず」とて feĉo が英譯では sediment とあるが、「原本には drojji とあり、drojji は酵母なれば、沈澱物なるには相異なきも、之を sediment と譯しては十分に其意を盡したりとすべからず」と云ふが如き之である。しかし今日より見れば、無理に日本語に譯出せんとした跡がないでもない。例へば melodramo を歌舞伎とし prunto を貸金とするが如き、又 spezo を運轉と譯したが如き之である。又 ja が「俗語のだつてに相當す」と

か、sama が「添詞、意味を強むる用をなす、我が「ぞ」「こそ」等の類」としてゐるのは面白い。其他、誤植の概して少いのは、「世界語獨習」と異なる點である。

本書の最後に掲載の「既刊世界語書目」は、當時のエス書を知る上に於て、興味深いものがある。今は稀書とされてゐる Gernet の Fantomoj や、Reisebilder, Hamleto, Nevola Mortiginto, La Gefratoj, La Libro Ruth 等が露貨を以て示してゐるのは、我々の垂涎せしめる所である。

以上簡単に二葉亭の「世界語」を紹介したのであるが、本書は主として獨習書として編まれたもので、文法的説明に止るが故に、經つた讀物のないのは止むを得まい。この點を補ふ爲、彼は九月に「世界語讀本」を發行した。

朱 筆 を 擱 い て

★先月號は發行がおくれた上に掲載原稿にも一部の人から非難を受けた。自分は或意味に於て筆者に對して同情を持ち又一面に於て公平でありたかつた。その上「後記」の書き方が悪かつたと見えて誤解をした方がある。此奴ア淋しい。

★此處に辯解? でもあるまひが云ひたいことがある。毎月編輯者が變るのは如何に不便があるか、そして毎月編輯者が同じであるのは如何に矛盾の伴ふものであるか、之を獨りで體驗した故。そして自分自身に對する編輯上の不安が遂に彼の如き後記を書かしめたのだつた。新參者、しかも淺學の身だけに。

★だが此の不安は近く開かれた編輯會議で全く拭ひ去られた。結局來年度からは合議的當番制、つまり毎月編輯會議で原稿を選定し、之を當番が處置すると云ふ方法だ。之によつて執筆される方々も今までより以上の努力と

緊張さをもつて R. O. 誌を守り、よりよき雑誌が產出されるであらう。

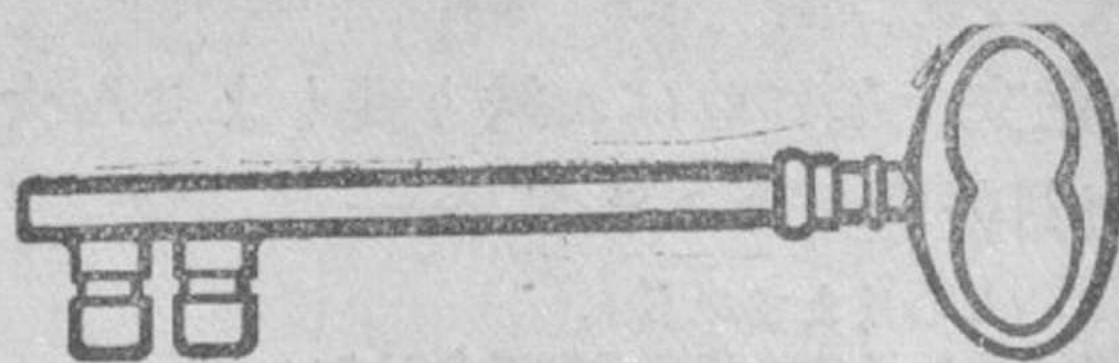
* * *

★今月も發行がおくれた。色々な意味で產出に多難だつた。少しく忠實に R. O. 誌の事を考へると、たゞへ健康に恵まれてゐなくとも又他に事情があらうとも、小生には損得を超越した理性と感情とがあつて、R. O. 誌から遠ざかることが出来ない。損な性分だが。

★此の意味に於て校正に忙殺されるのもさして苦にはしない純情さを持つてゐるので、彼のエロ、グロ、若しくは階級闘争、と云つた時代に生活してゐる人間としては少しばかり變り種だが。此の心持を解つて下さる方が一人でもあれば、如何なる惡評でも甘んじられる。えらい自己宣傳の後記となつた。

★和文エス譯は筆者旅行中に付記事が間に合はなかつた、御諒承を。

(池袋假寓にて、無花果居士)



★ 収載語數
三千五百餘 ★

待ちにまたれた **ŜLOSILO** 出づ!

— 日本エスペラント學會編 —

エスペラントの鍵

(ŜLOSILO DE ESPERANTO)

大さ——各國語 ŝlosilo と同一の菊判四分の一大

定價 5 錢——送料 2 錢——十部 45 錢、五十部 2 圓、百部 3 圓 50 錢 (但十部毎に送料 2 錢添付の事、送料なき時はそれだけ部數で差引ます。)

akciz'o 消費税
akir'i 獲得する
aklam'i 歡呼する、賛成する
akn'o 面靨(?)
akompan'i 伴ふ、伴奏する
akord'o 調和、和音
akr'a 鋭き
akrid'o 蝗
akrobat'o 輕業師
aks'o 軸
aksiom'o 公理
akt'o 〔劇〕幕、公文書
aktiv'a 能動的な
aktor'o 俳優
aktual'a 現實の
akurat'a 時間點の
akus'i 分娩する
akut'a 〔醫〕急性の
akuz'i 告訴する
akuzativ'o 目的格
akv'o 水
akvafor't'o 銅腐蝕版
akvarel'o 水彩畫
akvari'o 水族館
al 〔前〕……へ、……に
alarm'i 警報する
alaŭd'o 雲雀
album'o アルバム
albumin'o 蛋白質
ald'o 〔音〕アルト
al'don'o 附加、附録
ale'o 並木路
alegori'o 隱喻
alen'o 刺針
alfabet'o アルファベット
alg'o 海藻
algebr'o 代數學
ali'a 他の
ali'e 他に、然らずんば
aligator'o アメリカ鱷
alkal(i)o アルカリ
alkohol'o 酒精
alkov'o 小寢間
almanak'o 年鑑

almenaŭ 〔助〕少なくとも
almoz'o 施物
aln'o 棟(?)
alt'a 高い
altar'o 祭壇
altern'i 交替する
alud'i はのめかす
alument'o 燭寸
alun'o 明礬
am'i 愛する、戀する
amar'a にかい
amas'o 集團
amator'o 好事家(?)
ambasador'o 大使
ambaŭ 〔助〕両方とも
ambici'o 野心
ambos'o 鐵砧
ambrozi'o 神の食物
ambulanco 野戰病院
amel'o 澱粉、糊
amen 〔間〕アーメン!
amfibi'o 兩棲類
amfiteatr'o 圓形劇場
amik'o 友達
am'indum'i 媚びる
amnesti'o 大赦
amortiz'i 償還する
ampleks'o 大さ、廣がり
amulet'o 護符
amuz'i 娛します
-an- 〔尾〕團體の一員
anakronism'o 時代錯誤
analiz'i 分析する、分解する
analog'o 類推、類似
ananas'o バイナップル
anarki'o 無政府狀態
anas'o 家鴨
anatomi'o 解剖學
anekdot'o 一口噺、逸話
aneks'i 併合する
anemon'o アネモネ
angil'o うなぎ
angl'o 英國人
angul'o 角、隅

angel'o 天使
anim'o 靈魂
ankaŭ 〔助〕……も亦
ankoraŭ 〔助〕未だ、更に
ankr'o 錨
anone'i 告げる
anonim'a 匿名の
anser'o 鶩鳥 〔りに〕
anstataŭ 〔前〕……の代
-ant- 〔尾〕現在分詞
antagonist'o 反對者
antaŭ 〔前〕前方に、以前に
anten'o アンテナ、觸角
anticip'i 先行する
antikv'a 古代の
antipati'o 嫌惡
antipod'o 對蹠人
antologi'o 詞華選、文粹
antropologi'o 人類學
Anunciaci'o 御告、御告祭
anus'o 肛門
aort'o 大動脈
aparato 器具、裝置
apart'a 離れた、別の
apartament'o 居室
aparten'i 屬する
apati'o 冷淡、無感覺
apelaci'i 控訴する
apenaŭ 〔助〕幸じて〔接〕
aper'i 現はれるしするや否や
apetit'o 食欲
aplaŭd'i 喝采する
aplik'i 應用する
aplomb'o 泰然自若
apog'i よりかゝらす
apolog'o 訓戒的寓話
apologi'o 辯解
apopleksi'o 卒中
apostat'a 背教せる、脱黨
apostol'o 使徒 〔せる〕
apostrof'o 省字符
apotek'o 藥舖
apoteoz'i 崇め祀る
apozici'o 同格

エスペラントの運動
の總本部 Internacia
Centra Komitato de
Esp.-Movado で最近
新しく編纂した各國
ŝlosilo に準據して同
ICK から Japana ŝlosilo
編纂の依頼を受けた學
會編輯部ではその文法
の部を小坂先生に願
ひしその辭典の部は京
都帝大醫學部エスペラ
ント會に依頼して編纂
を了し、先月末植字準
備中の處今回完了發賣
の運びになりました。

たゞこの「鍵」は日本
向きに編纂したのでそ
の收藏單語の數も遙に
多くして三千五百餘語
を入れてあつて簡単な
字引の用をなす。

宣傳に大いに御活用
を乞ふ。

{ 振替口座 }
{ 東京 11325 番 }

財團 日本エスペラント學會
法人

東京市牛込區
新小川町 3 の 15

學會取次洋書目錄

★洋書は如何なる場合でも前金注文でなければお送り致しません★

—— 洋書の値段は毎月變動があります ——

…… 此處に無いのでも在庫してゐる物もありますから

御希望の書物は往復葉書で御照會下さい ……

【新 再 着 書】

定價圓(送料別)

- ★La vila mano. エスペラント原作界の大家 Bulthuis の作和蘭國民の生活を題材とし詩の如き名文……………上製……………3.30 (15)
- ★Sivaĝi. 17 世紀の印度の王様の物語筆者は印度の若きエスペランティスト……………0.85 (4)
- ★Bengalaj fabeloj. 好評だつた Sivaĝi の作者の第二回作品……………0.55 (2)
- ★Junulino el Stomyr. スエーデンの農村の物語詳細は九月號の新刊紹介……………0.85 (4)
- ★Viktimoj. Julio Baghy の原作、八月新刊紹介の物愈々到着……………2.50 (4)
- ★Analitika Geometrio Absoluta. 科學書少きエス界に輝く幾何詳解二部よりなる……………二冊で 4.60 (12)

- ★Plena Vortaro. 全エスペランティスト熱望の書到着せるも既に殘部僅少十一月末再着の豫定……………5.00 (内地 18, 植民地 24)
- ★Ekzercilo por supera praktika kurso de Esp. 會話を主としたもの中等講習に好適……………0.45 (2)
- ★KOM. BIBLIOTEKO.
 - Pri Lenin ……………0.25 (2)
 - Sennaciismo kaj internaciismo……………0.35 (2)
 - Pri Religio ……………0.25 (2)
 - Tiel estis en la jaro 1915……………0.15 (2)
 - Programo de Kom. Intern. ……………0.85 (2)
 - La vero pri persekuto kontraŭ religio en USSR ……………0.35 (2)

ザメンホフ博士譯著書

- ★Aldono al la dua libro de lingvo internacia. 世界で最初にエスペラント語で出た本の複製品……………0.25 (2)
- ★Rabeno de Baĥaraĥ. ハイネの小説と Šalom Aleĥem の Gimnaziano……………0.45 (4)
- ★La Rabistoj. 獨文豪シルレルの劇、ザ博士晩年の老熟の筆……………0.80 (4)
- ★La Revizoro. 露文豪ゴーゴリの喜劇譯筆輕妙真に喜劇中の白眉……………0.70 (4)
- ★Ifigenio en Taŭrido. ゲーテの傑作、第四回萬國大會で上演せるもの……………0.70 (4)
- ★La Batalo de l' Vivo. 英文豪 Dickens 作の humorplena な小説ザ博士の筆蹟あり……………0.55 (4)
- ★Andersen Fabeloj I 及 II. おなじみの丁抹アンデルセンのお伽噺……………各 0.80 (4)
- ★Marta. 波蘭閨秀作家 Orezeszko の小説最近には映畫化された……………1.30 (6)

- ★Rakontoj el Biblio. 聖書物語……………0.30 (2)
- ★Lingvaj Respondoj. ザ博士のなした質疑應答を集めたもの……………0.55 (4)
- ★Proverbaro Esperanta. 世界の粹を集めたエス語諺集……………0.70 (4)
- ★Georgo Dandin. 世界的喜劇作者モリエールの傑作……………0.45 (4)
- ★Originala Verkaro. ザメンホフ博士の諸種の雜誌へ寄稿した物、萬國大會での演説、諸方へ出した手紙、詩歌の大集成真にザ博士を慶するものは讀め……………7.50 (内地(27) 植民地(55))
- ★Predikanto. 聖書の中の一章……………0.10 (2)
- ★Eliro. 聖書の内出埃記……………0.30 (2)
- ★Levidoj. 聖書の内レビ記……………0.30 (2)
- ★Sankta Biblio. 上記の他ザ博士譯の舊譯聖書に新譯聖書をまとめたもの……………3.50 (12)

小

- ★Vera Historio de Ah Q. 珍らしい支那の翻譯もの、(Revuo 7 月號の新刊紹介にあり)……………上製 1.00 (4) 並 0.80 (4)

說

- ★Aventuro de Kalifo Harun Alraŝid. アラビア夜話よりの一篇 Cox 將軍譯……………0.15 (2)
- ★Aventuroj de Lasta Abenceraĝo. Gravado 王

- 朝亡明時代の物語……………0.15 (2)
- ★Du Noveloj. ハンガリー文學の代表作家 Maŭro Jokai の小説二篇……………0.45 (4)
- ★Kio povas okazi, se oni dancas surprize. Fritz Reuter の小説、繪入……………0.20 (2)
- ★Perdita kaj retrovita. 故エス學士院長 Boirac 博士原作喜劇……………0.10 (2)
- ★Reĝlando de rozoj. A. Honssaye 作の美しい夢の様な物語、譯は P. Champion. 0.20 (2)
- ★Tri angloj aliande. 英國三人男海外旅行奇談抱腹絶倒……………0.55 (2)
- ★Vivo de Zamenhof. 「愛の人ザメンホフ」傳萬人必讀の聖典……………1.60 (6)
- ★Karlo. Privat 博士の讀本用小説、中等講習讀物に好適……………0.25 (2)
- ★Bulgara Antologio. ブルガリアの名作詩、散文集、作者の寫眞入……………1.50 (6)
- ★El la intima libro de Verdurbaj Esp-istoj. Ada 氏等ブルガリアエスペランティストの隨筆集……………0.30 (2)
- ★Koboldo Ondra. 小年、森、森の鬼、赤い小旗の透惑——一風變つたお伽噺……………0.15 (2)
- ★Maliĉa knabo kiu gloriĝis. ホーランド大統領マサリツク博士の一代記……………1.10 (4)

~~~~~ 詩

- ★Atta Troll. 獨逸の詩聖ハイネの長篇詩、譯者は Zanoní……………0.80 (2)
- ★Garbo. ブルガリアの Asen Grigorov の原作詩……………0.20 (2)

~~~~~ 戲

- ★Barbra. 英文壇に名をあげた Jerom k. Jerome 作の一幕劇……………0.55 (2)
- ★Nevo Kiel onklo. 獨文豪 Schiller 作三幕喜劇 Ch. Stewart 譯……………0.20 (2)
- ★Vangoŝrapo. Drefus の一幕喜劇、標題の如し奇抜に幕が開く……………0.30 (2)
- ★Hundo parolanta. 道樂息子の遊學修業、親

~~~~~ 學 習 用 書 ~~~~~

- ★Kiel akiri bonan stilon. エス文上達法知名の作家 Zanoní の一家言 20×26 cm. の大版……………0.03 (2)
- ★Esperanto per instruaj bildoj. ホテル郵便局、停車場、男女服裝の部分品等實地教授式……………1.90 (6)

- ★Rompantoj. Valjes の Monologo 五篇を輯む、身振の寫眞入……………0.35 (2)
- ★Oni ridas. 鬼も笑ひ出す様な話を集めたもの故笑ひたくない方には禁物……………0.30 (2)
- ★En Okcidento nenio nova. 世界の讀書界を風靡した「西部戦線異状なし」エス譯……………上製 3.50 (10)
- ★Ribelemaj virinoj. 昔の支那婦人の悲惨な生活を物語る史劇……………0.25 (2)
- ★Du majstro-noveloj. 曾て Heroldo de Esp. に連載されて好評を博した Storm の小説二篇……………上製 2.10 (6) 並製 1.25 (4)
- ★Hondinka. トルストイ作寫眞入……………0.30 (2)
- ★Karl Marx. Karl Marx の傳記と彼の著作……………0.35 (2)
- ★Morto de Blanko. 鑛山労働者の生活を語るロシア語より譯……………0.35 (2)
- ★Ruĝa stelo. SAT 發行……………0.80 (4)
- ★Unua legolibro. D-ro Kabe 著讀本、小説、小話會話日用文を収む初學者必携……………0.70 (4)
- ★Vortoj de Cart. エスペラント學士院長 Cart 教授の論說全集、勁拔模範の筆致……………1.10 (6)
- ★Fatala Ŝuldo. 過去を通視する不思議な婦人の力、因果律の巧なる小説化……………1.10 (8)

~~~~~ 集 ~~~~~

- ★Tajdo. エス文壇知名の N. Hohlov の詩集、心の高調を詠じたる四十篇……………0.65 (2)
- ★Krioj de l' Koro. 雄辯界の一人者 Grenkamp が青春の詩集……………0.15 (2)

~~~~~ 曲 ~~~~~

- から金を巻取つた罰は? 喜劇……………0.25 (2)
- ★Maliĉa en spirito. 原作界の大家 Bulthuis 作の二幕劇……………0.30 (2)
- ★Rompantoj. Valjes がパロモロナの萬國大會で自演して好評を博した獨白五篇……………0.35 (2)
- ★Amfritriono. Morière 作の喜劇、あごをはすさぬ御用心……………0.55 (2)

- ★Supera Kurso de Esp. 高等エスペラント教科書として評判の言語委員 D-ro Dreher の著……………0.55 (2)
- ★Franca gramatiko. エスペラント書きのフランス語文法教科書……………0.55 (4)
- ★Naŭlivgva Etimologia Leksikono. エス英佛

獨等九箇國語對照語源字典 2.00 (6)
 ★Esp. Grammer and Comentary 1.90 (6)
 ★Oficiala Klasika Libro 0.40 (2)
 ★Bennemann エス獨辭典 2.10 (4)
 ★Bennemann 獨エス辭典 4.35 (8)
 ★Christaller: Esperanto 0.55 (4)

★Millidge エス英辭典 4.40 (6)
 ★Edinburgh. 英エス、エス英 0.90 (2)
 ★Rhodes 英エス辭典 2.10 (12)
 ★Petit Cours Primaire 0.30 (4)
 ★Maupin 佛エス辭典 1.80 (8)
 ★Vortaro de Esp., Kabe 0.90 (8)

~~~~~ 科學社會宗教其他 ~~~~~

★Evoluo de Telefonio. 電話器の發達に就て  
 挿畫入 ..... 0.55 (2)  
 ★Laborĉarto. .... 0.12 (2)  
 ★La Bulgara lando kaj popolo. Krestanoff  
 著 Bulgarujo の歴史、風俗、國情等を語る...  
 ..... 1.20 (2)  
 ★Evangelio de Horo. 赤い聖書 ..... 0.80 (2)  
 ★Elementoj de fotografa optiko. 寫眞術用初  
 等光學、多數圖入 ..... 0.35 (2)  
 ★Monadologio de Leibniz. ライブニッツの單  
 元論、譯は故學士院長 Boirac 博士... 0.10 (2)  
 ★Sendagereco de Francujo. 歐羅巴の平和に  
 就て佛蘭西前大統領 Honnorat 氏の言.....  
 ..... 0.55 (4)  
 ★Etiko. クロボトキンの「倫理學」SAT 發  
 行 ..... 1.00 (6)  
 ★ABC de Sennaciismo. Sennaciismo の入門

書 ..... 0.30 (2)  
 ★For la neŭtralismon. .... 0.18 (2)  
 ★Laborista Esperantismo. .... 0.20 (2)  
 ★Ni legu. .... 0.50 (2)  
 ★Naciismo. .... 0.65 (4)  
 ★Proletaria Kantaro. .... 1.25 (4)  
 ★Krimnologio. 犯罪小説好きの邦人必ずや讀  
 むべき眞面目な犯罪學の講義 ..... 0.85 (2)  
 ★Vojo al scienco de estonteco. .... 0.30 (2)  
 ★Vojo de formiĝo kaj disvastiĝo de lingvo  
 internacia. .... 0.35 (2)  
 ★Aŭstralio. オーストラリア風土記、多數の  
 寫眞地圖入の贅澤本 ..... 3.40 (6)  
 ★Nur volu! ..... 0.35 (2)  
 ★Je la nomo de l' vivo ..... {上 1.25 (4)  
 {並 1.00 (4)  
 ★Inicado Matematika ..... 0.35 (2)

外務省事務官 神吉正一 序 法學士 金井博治 編

改正定價九拾錢

送料二錢

# 和エス辭典

◇四六半截◇

百八十八頁

クロス上製

◇手頃にして内容豊富便利にして實用的なる小辭典として次第次第に根強き歡迎を受けつつあり。

(1) 本辭典收むる所日本語一萬一千。(2) エス語は文法簡短なれば單語を知る事に依り問題解決す。(3) 本辭典は大部の和英和獨辭典に比敵す。

【取次書店】東京堂——栗田書店

東京市外野方町新井 未 來 社 振替東京六七〇九參

## KORESPONDA FAKO

★Japanujo:—S-ro A. Kanada, P. O. Box 1,  
 Naogata, Fukuoka-ken; dez. int-sang PI,  
 PM, malnovajn monerojn, kël:  
 ★Japanujo:—S-ro U. Takahashi, 1480, Ko-  
 jado, Magome, Tokio-sigai; dez. int-sang  
 esp-sigelmajkojn, PM.  
 ★Japanujo:—S-ro I. Nakano, Ko-541, Ŝira-  
 hama-mura, Ŝikama-gun, Hjogo-ken; kël.  
 IP, PM, L, nepre. resp.  
 ★Hispanujo:—Alejandro Pedro Marqueta,  
 Santa Inés 4. Zaragoza; dez. int-sang. PM  
 kun indaj filatelitoj el ĉiuj Orient-landoj,  
 Diversaj katalogoj. Resp. garantita.  
 ★Svedujo:—S-ro Hugo Carlson, Ripagatan

66, Trelleborg; dez. koresp. per IP. kun  
 japanaj gesamideanoj.

★Hispanujo:—Antono Llinas Bellvehi, Pedro  
 de Vera 9, LAS-PALMAS, Kanaria In-  
 sularo; dez. koresp. pri divers. problemoj  
 kun seriozuloj.

★Anglujo:—May Trengove; 85, Howorth  
 st., Rishton, Nr. Blackburn, Lancashire,  
 Anglujo.

★Ĥinujo:—S-ro K. Fukuoka, Eijubjoin,  
 Tecurei, Sud-maĉurio kël. L. PI.

★Sciencaj artikoloj:—Donacu por nia bib-  
 lioteko. Esp-grupo de Medicina fako de  
 Kioto Imp. Universitato, de S-ro C. Kaza-  
 ma, Takejamaĉi-kudaru, Sakaimaĉi-dori,  
 Kioto, Japanujo.



# 1931

取次締切 11 月 15 日【期限厳守】!!! 至急申込を!!!

..... 期限後は絶対に取扱はず .....

👉 下記の來年度雑誌の購讀を取次ぎます 👈

【注意】一年以下は取扱はず

**ESPERANTO**

{ 雑誌のみの購讀 ..... 年 4 圓  
雑誌と年鑑とでは ..... 年 圓

萬國エスペラント協會 (Universala Esperanto-Asocio) の月刊雑誌です。  
大さ菊倍判 20 頁位。全部エス文。(大抵八月號は七月號と合併號)。各國  
のエスペラント運動や興味本位のエス文讀み物満載。

**HEROLDO DE ESPERANTO** ..... 年 6 圓

エス文のみの週刊新聞。四六四倍判 8 頁。エス運動の報告は敏速に報道  
する點に於て世界無比。しかも興味あるエス文の讀み物満載。

**SENNACIULO** ..... 年 5 圓

Sennacieca Asocio Tutmonda 發行の週刊新聞。菊倍判 12 頁。無産運動  
及社會運動に興味のある方にまつてはかく事のできぬもの。[SAT 入會の  
取次は致しません。]

**NOVA EPOKO** ..... 年 2 圓 50 錢

上記 SAT からでゝある社會教育其他に関する論文集です。これは SAT  
に關係ない人にまつても興味ある讀み物満載。

★注意:—以上の二種について—SAT 會員は購讀料に割引がありますが當會  
では割引できませんから。

**BULTENO de Internacia Scienca Asocio Esperantista.**

年 1 圓 10 錢。Scienco 方面のエス運動の鳥瞰圖は本 ISAE 協會會報に  
て。年四回發行菊判本文 16 頁。

- 【注意】
1. 以上の雑誌は送金は當會で取扱い雑誌は先方より直送させます。
  2. 當會へ送金の際、住所姓名全部をロマ字又は振假名附で書いて下  
さい。[振假名を忘れたものは取扱はず]
  3. 途中で條件を變更される事はお斷り。轉居の時はもこの住所を明記  
して直接先方へ御通知を。
  4. 本年上記雑誌購讀中の方はその旨特に御明記の事。

——【以上の外の雑誌は當會で取次ません】——

—— 東京市牛込區新小川町 3 の 15 ——

財團 日本エスペラント學會取次部

(振替口座東京 11325 番)



財団法人 日本エスペラント學會發行圖書其他

|                | 冊                      | 送付     |
|----------------|------------------------|--------|
| エスペラント捷徑       | 最新最良の獨習書……………          | 1.00 6 |
| エスペラント講座       | 外國語を知らぬ人の獨習講義録……………    | 0.50 4 |
| 新撰エス和辭典        | 語數一萬五千餘、譯語正確、索出至便…………… | 0.60 2 |
| エスペラント講習用書     | 文法教科書と讀本とを兼ね……………      | 0.35 2 |
| エスペラント短期講習書    | 大きな活字で要領よく編輯した……………    | 0.20 2 |
| エスペラント初等讀本     | 挿繪入程度低く小中學生にも適す……………   | 0.30 2 |
| エスペラント中等讀本     | 興味深き讀み物數十篇を収む……………     | 0.30 2 |
| エスペラント發音研究     | エス語發音上の疑問を氷解す……………     | 0.30 4 |
| 點字エスペラント文法と小辭典 | 盲人用獨習書兼字引……………         | 1.00 6 |
| エスペラントやさしい讀み物  | 笑話廿二篇を對譯詳註し興味横溢……………   | 0.10 2 |
| 愛の人ザメンホフ       | エス語創案者ザ博士の傳記……………      | 0.80 6 |
| リングヴィ・レスポンドイ   | ザ博士の言語上の解答を蒐む……………     | 0.50 4 |

~~~~~ エスペラント對譯詳註叢書 ~~~~~

| | | |
|--------------|-------------------------|--------|
| 1. マテオ・フアルコネ | 「カルメン」の作者メリメの名篇…………… | 0.35 2 |
| 2. ハイネ詩集 | 情熱詩人ハイネの詩數十篇…………… | 0.40 2 |
| 3. 魔法使 | ザイデルの爐邊物語中の一篇…………… | 0.40 2 |
| 4. 代理通譯 | 一幕物抱腹絶倒さす程の大滑稽劇…………… | 0.40 2 |
| 5. 愛ある處神あり | 杜翁の短篇。附録「エス學習書籍解題」…………… | 1.50 6 |
| 6. レイモント短篇集 | 「農民」で有名な波蘭文豪レ氏の短篇…………… | 0.40 2 |

~~~~~ エスペラント書き日本叢書 ~~~~~

|              |                    |        |
|--------------|--------------------|--------|
| 1. 骸骨の舞跳     | 秋田雨雀戯曲三篇……………      | 0.40 2 |
| 2. 倫敦塔       | 夏目漱石原作 西博士エス譯…………… | 0.15 2 |
| 3. 惜しみなく愛は奪ふ | 有島武郎原作 東宮氏エス譯…………… | 植字中    |
| 4. 日本民族の起源   | 時枝誠之論文平岡氏エス譯……………  | 0.10 2 |

|             |                                 |                 |
|-------------|---------------------------------|-----------------|
| エスペラント單語カード | 七百二十語に一々用例を示す……………              | 1.70 12         |
| エスペラント文例集   | カードと同一内容の本……………                 | 1.70 8          |
| エス演說會話レコード  | 小坂氏吹込兩面……………                    | 1.20 40 (内地外65) |
| エスペラント便箋    | 正百枚一冊……………                      | 0.20 4          |
| エスペラント封緘紙   | 八十枚入一袋……………                     | 0.20 2          |
| エスペラント手拭    | 三越特製上等……………                     | 0.20 2          |
| 日本風景風俗エハガキ  | 四枚一組三色刷エス説明入……………               | 0.10 2          |
| 緑星章         | 甲種(安全ピン止) 乙種(背廣用) 各 (送料共)……………  | 0.30 -          |
|             | 丙種(安全ピン止特製) 丁種(背廣用特製) 各……………    | 0.50 6          |
| 緑星カウスボタン    | (箱入一組)……………                     | 1.20 6          |
| 緑星旗         | 紙製緑地に白く「エスペラント」と抜く。十枚(郵税共)…………… | 0.15 -          |

|        |            |                                            |
|--------|------------|--------------------------------------------|
| [無代進呈] | 『宣傳の榮』     | { 百枚以下無料 (但送料卅枚毎に四錢)<br>百枚以上百枚毎に實費送料共六十五錢  |
|        | 『宣傳のチラシビラ』 | { 三百枚以下無料 (但送料百枚毎に二錢)<br>三百枚以上は百枚毎に實費送料共十錢 |



本邦で  
出版の

|                       |      |    |
|-----------------------|------|----|
| ★ザ博士演説集(カニヤ版).....    | 0.80 | .4 |
| ★夜の空の星の如く(同上和譯).....  | 0.80 | .6 |
| ★ザ博士演説集(佐々城氏編).....   | 0.30 | .2 |
| ★我國における外國語問題とエス語..... | 0.60 | .4 |
| ★心の片隅.....            | 0.50 | .2 |
| ★詩集花束.....            | 0.80 | .4 |
| ★緑の星に憧れて.....         | 1.20 | .8 |
| ★新魔王(エス文).....        | 0.30 | .2 |

|                        |       |    |
|------------------------|-------|----|
| ★悪夢(エス文).....          | 0.20  | 2  |
| ★大成和エス辭典.....          | 4.80  | 18 |
| ★模範エス會話.....           | (版絶?) |    |
| ★寡婦マルタ(改造文庫).....      | 0.30  | 4  |
| ★カルロ(四方堂版).....        | 0.20  | 2  |
| ★ザメンホフ(ドレーゼン)梶氏和譯..... | 0.85  | 5  |
| ★悲惨のどん底 黒川氏和譯.....     | 0.80  | 6  |

- ◆日本語エスペラント小辞典 (三高) [普及版] ((値下)) ..... 0.50 .2

- ◆模範エスペラント獨習 (秋田、小坂共著) [普及版] .....1.00.9

- ◆日・エス・支・英 會話と辭書……………〔普及版〕0.65 .6 〔上製〕0.85 .6

- ◆エスプラント絹ハンケチ(高級刺繡)..... 緑星光下の地球、旭昇る富士山の二種あり。  
(男女別申出の事) 各1枚75銭送料各2銭

- ★エス・羅・日・ 藥品名彙(南江堂版)(見本は東京市本郷區春木町).....1.50 .6  
獨・英・佛 ———南江堂へ———  
醫藥學エスペランチスト必携

新撰エス和辭典

|    |   |   |   |   |       |    |   |   |         |
|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---------|
| 定價 | { | 特 | 製 | 版 | ..... | 80 | 錢 | } | 送料各 2 錢 |
|    |   | 普 | 及 | 版 | ..... | 60 | 錢 |   |         |

★ グ ラ シ ヤ 史 劇 藤澤古雪原作 } 價 20 錢  
畑、村 上 共 譯 } 稅 2 錢

愛あるところ神あり

【附録】 エスペラント研究用書解題

トルストイ原作短篇小説・シドロヴスカヤ女史エス譯・川崎直一和譯並註

三五版クローズ装美本 三百三十一頁 特價 1圓50錢 送料6錢

★ [科學特輯號] 特別に一部十錢(送料共)の割で希望者に頒つ ★

東新 京小 牛川 込町 財團人 日本エスぺラント學會 振替口座番 東京11325



La Revuo Orienta—Monata Organo de Japana Esperanto-Instituto,  
Ŝin'ogaŭamaĉi III-15, Uŝigome, TOKIO, Japanujo; abono internacia 7 svls. frankoj.

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財團法人 日本エスペラント學會

【東京市牛込區新小川町三の十五】【振替口座東京 11325 番】

- 目的 エスペラントの普及、研究、實用
- 事業 (a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表  
(b) 雜誌及圖書の刊行等  
(c) 講演會、講習會の開催及後援  
(d) 其他本會の目的を達成するに必要と認むる事業
- 會費 (a) 普通維持員 年額 2 圓 40 錢 (b) 正維持員 年額 3 圓  
(c) 贊助維持員 年額 5 圓 (d) 特別維持員 年額 10 圓以上  
(e) 終身維持員 一時金 100 圓以上
- 入會手續 住所、職業、姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい。(振替送金最も安全)
- 維持員の特典 1. 毎月研究雜誌“La Revuo Orienta”の配布をうく  
2. 出版圖書の割引をうくることあり  
3. 語學上の質疑其他一般の問合の返事をうく  
4. 宣傳の「榮」その他宣傳材料を無料でうくることを得

詳しいことは直接お問合せ下さい

役員名簿 (五十音順)

|     |        |         |    |      |         |     |         |
|-----|--------|---------|----|------|---------|-----|---------|
| 理事長 | 高層氣象臺長 | 大石和三郎   | 理事 | 文 博  | 高楠順次郎   | 理事  | 大 井 學   |
| 理事  |        | 秋 田 雨 雀 | 同  | 東野部長 | 土 岐 善 磨 | 同   | 三 石 五 六 |
| 同   |        | 上 野 孝 男 | 同  | 醫 博  | 西 成 甫   | 監 事 | 農學校長    |
| 同   | 女大教授   | 河 崎 な つ | 同  |      | 美野田琢磨   | 同   | 法 學 士   |
| 同   | 中大教授   | 川原次吉郎   | 同  | 醫 博  | 望月周三郎   | 顧問  | 辻博男爵    |
| 同   | 文 博    | 黒 板 勝 美 | 同  | 東野顧問 | 柳 田 國 男 | 同   | 子 爵     |
| 同   | 専大教授   | 小林鐵太郎   | 同  | 鐵道技師 | 小 坂 狷 二 |     |         |

本誌購讀料 (郵税別)

|     |        |                  |
|-----|--------|------------------|
| 一 部 | 圓 0.20 | 學會維持員には<br>無代頒布す |
| 半年分 | 圓 1.20 |                  |
| 一年分 | 圓 2.40 |                  |

本會振替口座番號 { 一般 (東京 11325 番)  
會計用 (長野 3283 番)  
基本金専用 (東京 32089 番)

昭和五年十月二十五日印刷

昭和五年十一月一日發行

編輯兼  
發行人

印刷人

發行所

東京市牛込區新小川町三ノ一五

大 井 學

東京市神田區三崎町三ノ一四六

高 見 澤 保 芳

(一 國 印 刷 所)

東京市牛込區新小川町三ノ一五

財團法人 日本エスペラント學會

昭和五年十一月一日發行 (毎月一圓一日發行)  
エスペラント研究雜誌「ラ・レヴ・オリエンタ」第三十一號

定價貳拾錢 (送料貳錢)